木曾路名所圖會

六

地
二
丙
九
一
七

915.5
327
Vol.7上

木曾路名所圖會卷之六

目録

日光山　黒髪山　神石観音寺　星宮
見目祠　下素石　神橋　仮橋
潮砂王宮　長阪　石鳥居　五層塔
御仮殿　石燈爐　御番所　二王御門
御厩　御手水屋　紫羽御鳥居　経藏
鐘楼　鼓楼　御本地堂　陽明門
神樂所　蓮摩堂　御唐門　御瑞籬
拜殿　御別所　奥院　三佛堂
御宮　常行堂　亀井水
新宮鳥居　稲荷祠　相輪樓
慈眼大師堂　法華堂　文殊堂

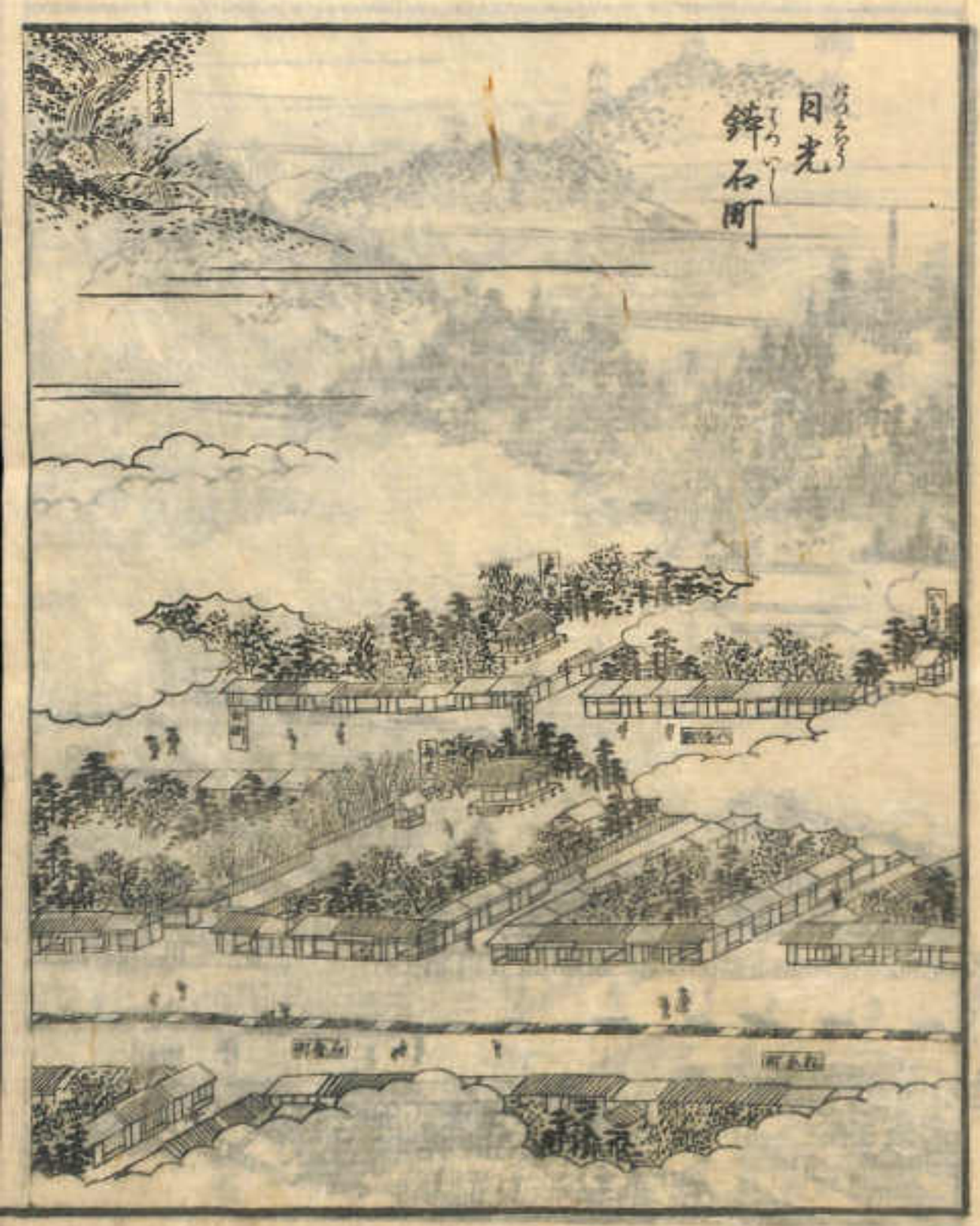
北日御霊舎
新宮別所
阿弥陀堂
地蔵石
山王祠
御別所
三王風雷門
根本祠
世番神堂
石動石
御産宮
三層塔
本地堂
新宮大将殿
十八王子
三尊石
薬師堂
石動堂
正観音堂
瀧尾社
子種石
手拭石
七花泉
白山権現
本社味耀社
山王祠
金剛堂
毘沙門天
大黒堂
行者堂
二宮赤倉祠
揉燈護摩所
千手堂
酒泉池
外山
天神祠
小王堂
辨天堂
稲荷祠
慈覺堂
山王祠
十王堂
石橋
熊野杉
石鳥居
幸地堂
三本杉
氷岩
地蔵堂
四本龍寺
鹿島祠
護摩所

番神堂
南谷
釋迦堂
池石
石動堂
大黒山
羽黒瀧
護摩堂
骨堂
金剛山
十八王子
足腹石
観音堂
別所
西谷
愛宕祠
二本杉
三宮赤倉祠
富士見山
姓生院
石地蔵
赤鳥瀧
中禅寺道傳
薬師堂
鞍掛山
足尾
三宮
善女寺谷
八幡祠
常行念仏堂
寂光寺社
川俣温泉
阿弥陀堂
霊庇閣
平石
地蔵堂
大日堂
煩悩山
馬返
一宮
妙道院
延命地蔵
求聞持堂
二子山
別所
慈雲寺
赤柳山
二宮山
蓮華石
裏見瀧
清瀧権現
石動堂

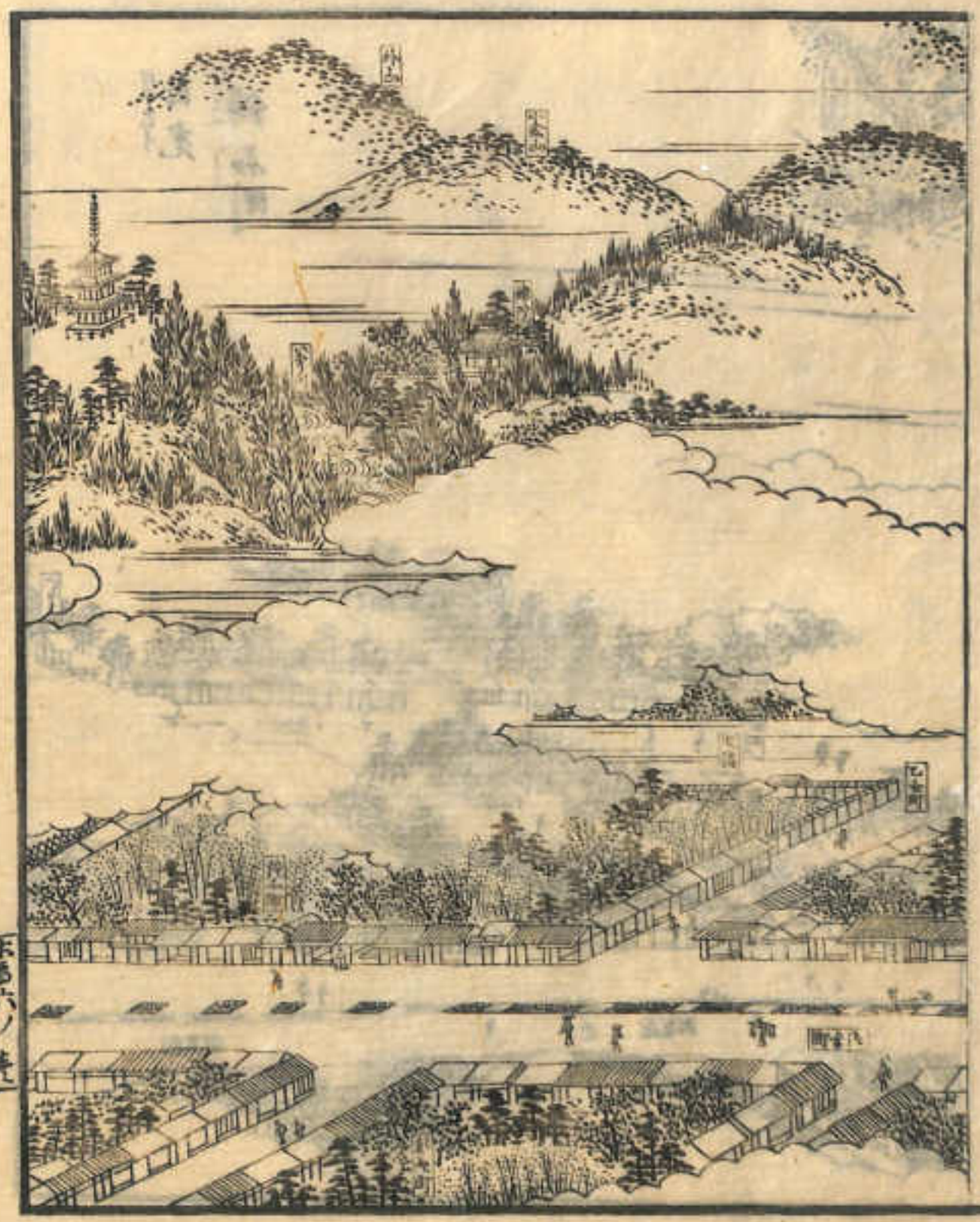
神子石　牛石
渓地蛇　鐘楼
立木観音　中禅寺社
蔵檀堂　根本祠
三層塔　護摩所
薬師堂　日輪寺
龍燈石　倚石
紅葉浦　椰子滝
宇治滝　菖蒲沼
湯本道　赤沼原
湯滝　湯守
焼湯　笹湯
薬師湯　河原湯

中禅寺　湖水
不動堂　妙見祠
男體山　三社権現
摩伽羅天　山王祠
歌ノ渕　寺ケ崎
上野畠　梵字石
千手渕　鳳凰水
大嵩　大瓦
獅子渕　金腸
弓張猶　幕張山
御祈湯　滝湯
自在湯　中湯
大真子　小真子

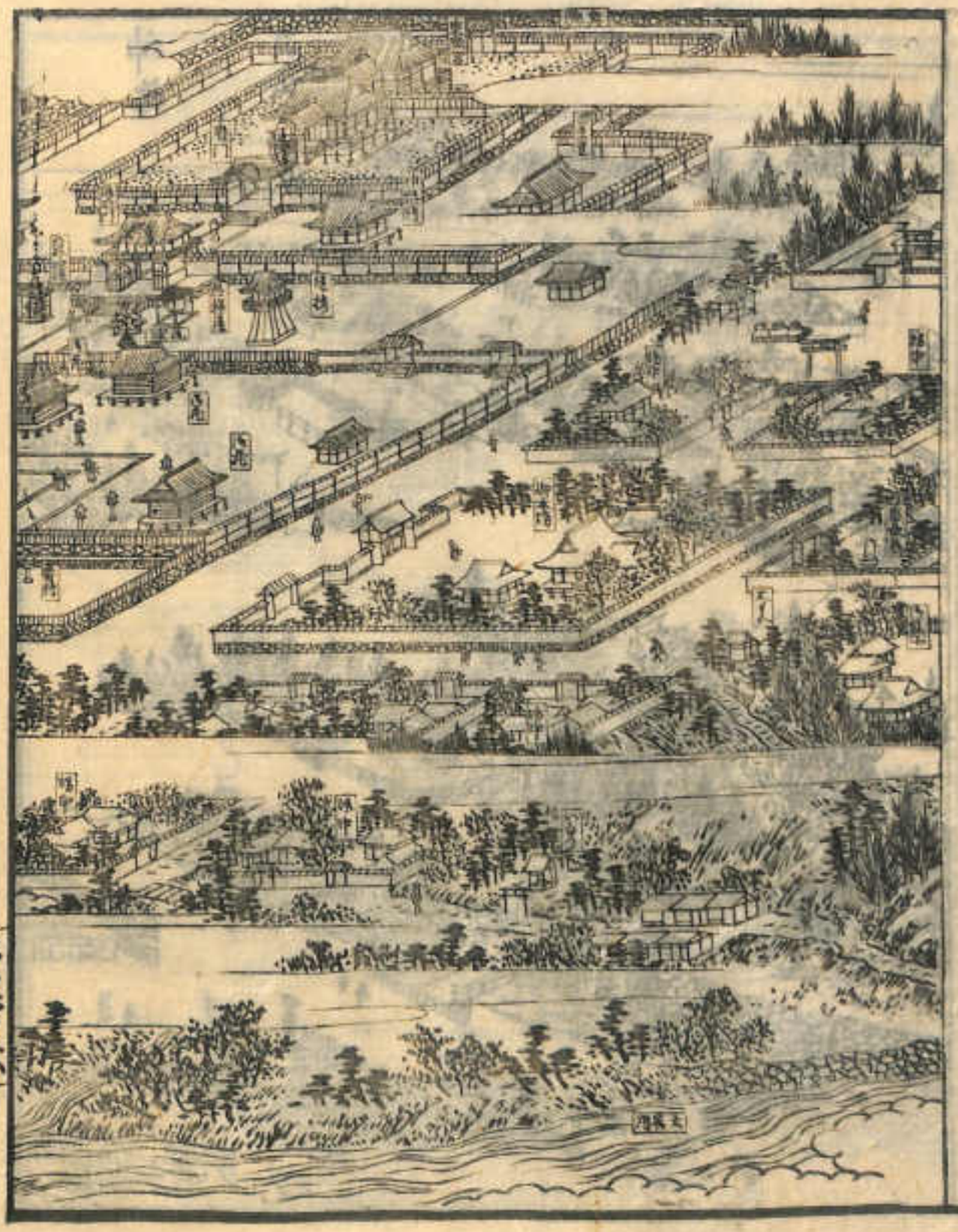
猿山　帝釋嶽
前二荒山　三笠山
温泉嶽　女峯山
白根山　湯殿山
日光名産　日名製
宇都宮通
雀宮　小山判官城址
不動院　千住大橋
浅竹川　武蔵野
姿井
大王山　雪山
赤倉山　鈴嶽
太郎嶽　月山
華厳嶽　大平
従日光道法
壬生通
薬師寺
安穏寺
霞ケ関
向岡
金龍山


日光
錺石町

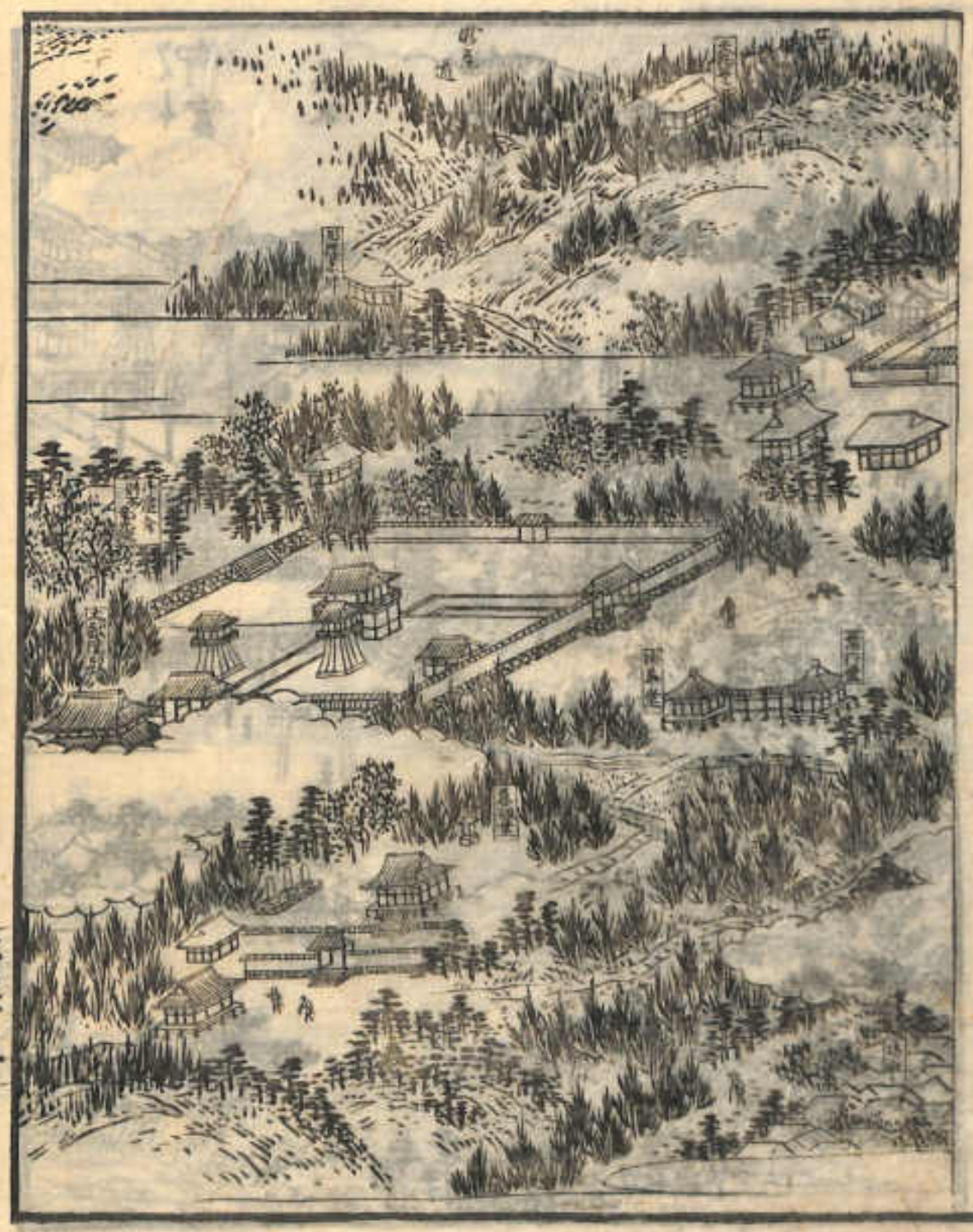
神社
其弐


本堂六ノ壱

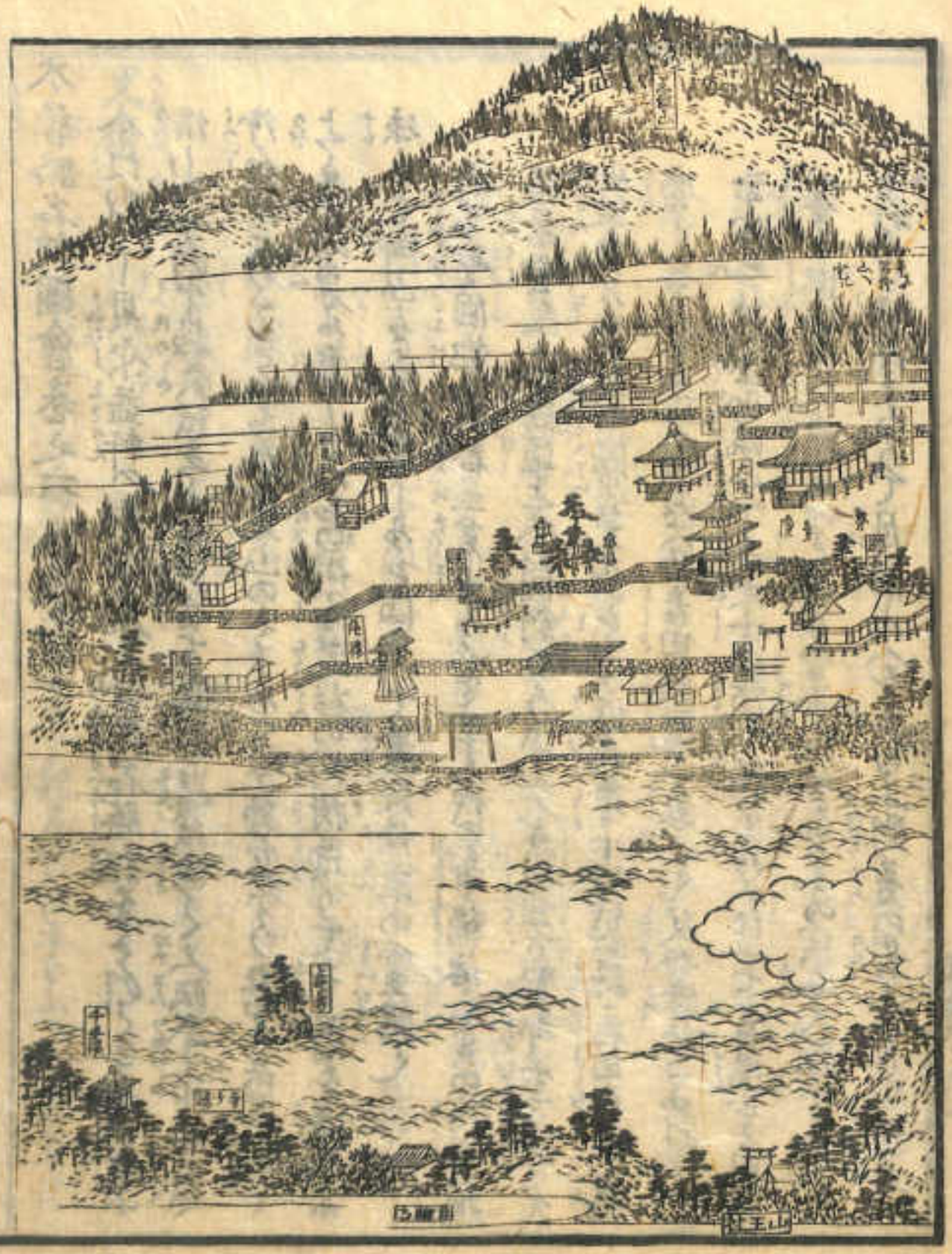
其三
御宮

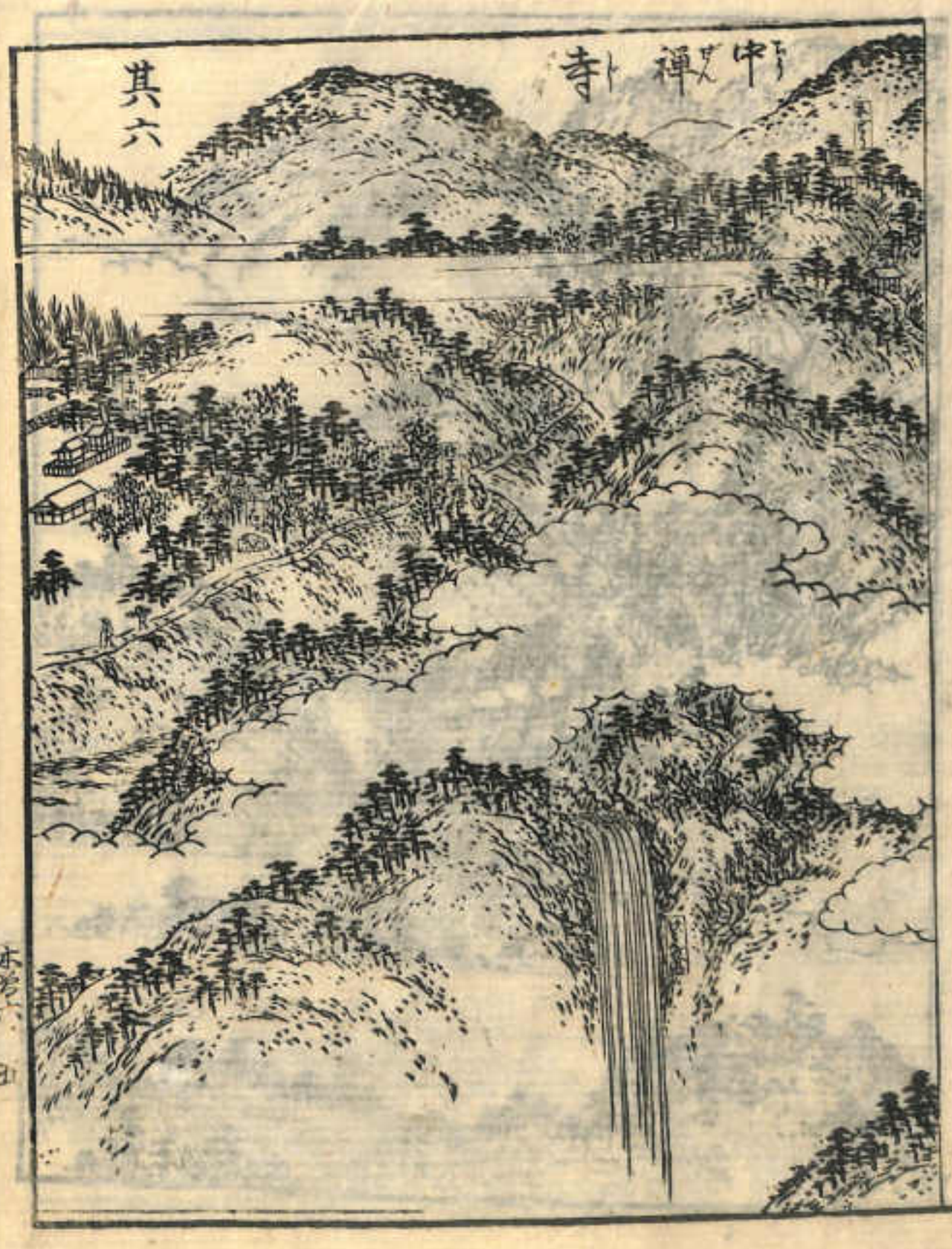


其四



其五




其六
中禪寺

木曾路名所圖會卷之六

今はむかし貝原益軒のあらはされし日光名勝記をもとにしてこゝに及ぶ
猶しるすまゝ字数文章をもとく簡にして山所の景色をもとく大況今市より越
後石の所にいたるこゝろん日光山のそばめぐりの宮より九里其道術く
上るゆへ坂多く高し　たゝの例ゝ老杉の列樹高くして暑を避ぶ
徐しく御山をあゆみ　ゆゑ国さうして屋代徒家の霊場し
祈り聖国都賀郡二荒山ゝ人皇四十八代の帝桓武天皇の御宇神
護景雲元年勝道上人の開創なり此上人ゝ同郡芳賀郡室八嶋にて
出産あり父ゝ垂仁帝第九の皇子繼向尊十代の孫右田氏高藤
麿ゝ母ゝ正二位左大臣右田清麿の息女なり父母嘗てゆめ
中に出流山千手大士ゝ授く給ふに一七日満ずる夜
八葉の蓮花中に蘇糸にく纏光る玉のゆうあるゝの紙をく給ふと見えて
それより妊身ゝして月満上人を産み上則義の告ゝよりて雅名紙

蘇糸丸とあづけ給ふ此小児幼時よりと異相ありて佛門ゝ公
帰く仏教ゝ学ぶ生を上世く堂舎と營み業ゝるゝ好を給ふて
生成て出流の観音ゝ参ゝて修行ゝの間ゝ行ひく不思議
の所作あり二荒山開創ゝ事ゝ思ひ立給ひ廿七歳の冬附同
国薬師寺ゝく剃髪し給ひそれより素念ゝ遂んとく山ゝ登
き本宮四本龍寺ゝ建営し給ひ厨后中禪寺ゝ建営し給ひその
外の霊社をおのゝく御造創あり紙奉ありて弘法大師登山
し給ひ二荒ゝ日光ゝ改名ゝ給ひ又慈覚大師も登山し給ひく
所ゝく小堂社ゝ造ゝ給ふ所ゝ斯く星霜八百余年を経ゝ給ふ
頃慈眼大師中興の開山ゝ成て　神威を海内ゝ輝しゝ給ふ
其霊場ゝ給ひけるゝも給しく其あらはし給ふと記ゝ給ふ

黒髮山　日光山の中

万葉　鳥眼山の麓みゝ山の山巻ゝ小谷落ゝ給ふ

新十

後人の真葛氏芝や行めんまうみ山の五月雨乃比　公實

新後拾

身のうへ乃ひらん事をとゝのゝ思ひ山ゝ雪　頼政

日本紀第五云　崇神天皇之子豊城入彦命夢自登御諸山向東而弄槍八回擊力於是奏夢事天皇以豊城命令治東國是上毛野君下毛野君之始祖也

延喜式云　下野國河内郡二荒山神社名大神

神社考云　余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與補陀洛音相似由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛山歟

釋書云　勝道姓若田氏野之下州芳賀郡人早山塵累鑽仰勝業州有補陀洛山峰巒峻峙振古未有陟者道以神護景雲元年七月企跋渉路險雪深雲霧晦瞑不能登止山腹凡經三七日而還天應元年孟夏又興先志亦屈而退延暦之始季春之月發大誓致勤修且曰若回不到山頂亦不至菩提淅違于頂銀峰環峙四湖碧深奇花異木殆非人境道堅誓所遂悅目喜心乃結蝸舍於西南隅修懺又三七日道雖究山區未盡湖曲三年之夏造小船浮東湖西南北湖備極游蕩就勝處建伽藍曰神宮寺居四載道行與靈境並傳桓武帝聞之勅任上野講師又與都賀郡創奉厳精舎大同二年州界大旱刺史令道祈雨道上補陀山行法雪甘雨速降百穀皆登

同書云　圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人也昔崇神天皇第一皇子豊城入彦節察東壤其次子留為鄉人仁其亂也延暦十三年生焉是日紫雲覆產屋

同郡大慈寺僧廣智徳行兼優俗号廣智菩薩者
也適見祥雲出寺起所乃檀越壬氏之宅也其後
仁遂就廣智智將仁登膚嶽與傳教教悦納焉世
云圓仁慈覺大師登日光山立寺院

日光下野

又二荒とも書に入口の所に初石とて又神石とも書に今市より
二里の間引橋の枝あり古農家あり其神石の本戸と入る松原所石
屋所所の頭赤例ハ
○瑞雲山龍蔵寺あり本尊観音を安置慈覺大師の作なり先ゝ行ふ
三十三所の観世音あり雜勝天堂惠心の作なり山寺千坪坂ふ
三十三番の札所ゝまわり神幸所赤例中程ふ猶所(ゆ)道あり
其所の中程ふ猶寺あり石刻神とあるは猶所の所ゝ也あり通り猶
神石所ゝ三ツふ別ゝ行ふ下神石所幸術ふ横所あり八乙女所とふ下
神石の中程ふ

○寶珠院寂場ゝそ小寺あり寺内ハ観音堂あり運慶の作ゝ聖
坂東の札所ゝあり又所の所了ふ
○神石山観音寺あり寺内の山上ふ千手観音堂あり弘法大師の作
ゝ上神石所山不動所の名製漆塗桃折殺曲物多あふ所有
右初光の松原所より南所ゝて拾ゝ十三所ゝあり
○下馬山所左の方ハ石の居本武登ゝて森の中ふ
○星宮ゝあり年尊ハ天童を安置ゝ殿あり日下續ハ南山ふ
出家入峯の部初ゝの堂ゝあり星の宿とふ毎年極月廿六日ゝ
ゝ者下着ゝ帳子一ツ條無一衣ゝて山ゝ祇勤ゝ行ゝて四年
の六月下旬ゝ山ゝ帰ハ出峯ゝ二月二日の行出峯ゝ行ゝ天下安泰國家
○豊饒の所祈願ゝ行ふ
○見目明神ゝ之世ゝ行ふ
○下条石山所ゝ行ふ初ゝ日所の禁ハ
○下条石山所ゝ行ふ初ゝ此方ゝ忍ゝ松の茂ゝ行ふ山ゝ小金ゝ

○[illegible]長法[illegible]元年大[illegible]山都て[illegible]を見[illegible]三四方あせ[illegible]

○[illegible]

○神橋[illegible]山の人[illegible]あり 桐[illegible]宝珠あり[illegible]も朱塗[illegible]り此橋を[illegible]
[illegible]山菅の蛇れ橋[illegible]
[illegible]川より[illegible]て橋な[illegible]深沙大王忽然[illegible]て現し青赤の二
蛇を放て橋[illegible]
[illegible]上人[illegible]る山蔵[illegible]川[illegible]蛇の脊小蔵[illegible]

○[illegible]中[illegible]神橋と[illegible]橋の行桁三通あり[illegible]れ
[illegible]乳の木[illegible]の竜[illegible]の乳の木[illegible]竜[illegible]を龍宮へ通[illegible]
[illegible]の[illegible]橋の門[illegible]七社の[illegible]神を[illegible]ある[illegible]岩に難へ[illegible]
[illegible]紙[illegible]橋[illegible]の[illegible]神[illegible]法楽の[illegible]式あり

○假橋 [illegible]千あり[illegible]の人馬[illegible]を[illegible]川を大谷川[illegible]大[illegible]
[illegible]源[illegible]中禅寺湖水[illegible]流る[illegible]の方[illegible]故[illegible]東山[illegible]岩石の坊舎[illegible]
[illegible]通[illegible]坂下[illegible]神あり[illegible]れ[illegible]

御神領の堺[illegible]通[illegible]

所[illegible]衛通[illegible]杉[illegible]ど松平[illegible]

○深沙大王宮[illegible]長の願[illegible]大明院一品准后法親王の真筆[illegible]山社[illegible]

神橋守護の[illegible]

○長坂 御宮への道筋神橋より登り坂[illegible]山坂を南[illegible]
日所道の[illegible]月長月の[illegible]祭[illegible]御[illegible]あり山[illegible]より[illegible]三品[illegible]
の御[illegible]人[illegible]奉[illegible]
中山通[illegible]寺四[illegible]所あり山中[illegible]流して寺[illegible]安達[illegible]
盛長の石[illegible]坂安[illegible]道の[illegible]
御幸場 輪王寺宮[illegible]

○石鳥居[illegible]黒田長政[illegible]寄進[illegible]石[illegible]流[illegible]志[illegible]小金九村の
[illegible]ある小山[illegible]
南山[illegible]
[illegible]居の鳥[illegible]石[illegible]

よりと二丈ばかり上の笠石の横ばりさし六間二尺五寸両柱の間中ばかり二丈五尺柱のわりこう三尺五寸ばかりとうり上両柱より絶間一所ばかりあり長サ四尺七寸横ばり六寸七分ありと称し神新ゝ　波水尾院宸筆し

左の方

○五層塔　これハ酒井讃岐守殿寄附なり本堂の東ハ基所西ハ弥陀北ハ祇園南ハ多度中央大日如来なり

○御假殿　これハ　御宮御造営の時遷宮なり〳〵ハ所あるく

二六附井の清水ばかりなり又毎月十日夏ハ屋上ハ毎年御湯と称なる則此所の釜三ツあり

○二王御門　本此御門ハ本石鳥居本両服石獅猫両基ハ酒井讃岐守殿寄進

勝軍石の御手洗なり内しくく右の方ハ

○御番所　あり此所ハ毎年ハ拝をぬぎ長く清とみぐろハ人ハ

入ハ旅客ハ素清の手章をもつて猫表の社僧ハ切札なるゝ客

はゝ〳〵ひ入ハ〳〵く社僧の獅猫の手水を取るく御門表ハ見ゆ〳〵ハ先ハく

出入ハ石垣ハ大石二ツのりこれハ本西ハ〳〵り出ハ弦度の高塀ハあり

ちゝふ三ツの石あり石垣ハ大石ハ本ハ長サ二尺五重塔ハ三ハ石垣の大石ハ

中里人ハ〳〵り石垣の内ハ堅横三間位の大石あり〳〵これハ阿房石荒目石と

〳〵ハ〳〵ひ〳〵く〳〵

○二王御門　右石阿吽二王長一丈弐尺体裏の方ハ唐獅子なり此御門

ハ入ハ〳〵く右ハ金獅猫石獅猫あり是ハ諸侯方より御寄納なり右の

方ハ御宝殿三間所ハ波水廊なり横一間あり

○御厩　素本造なり御神馬あり高ハ下厩ハ〳〵り御一ハ〳〵の清附

ハ所ハ本なり

○御手水屋　此御手水ハ舎ハ御新〳〵ハ建て天井の彫物ハ浪ハ龍

龍形なり手水石鉢ハ肥前佐賀の城主鍋島侯肥前より運送し

御手洗内なり参詣の者ハ〳〵〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵

○紫烟御香炉あり

○経蔵傳大士の像なり傳小英佛より伝石階を登りて

○撞楼鼓楼　左の方小朝鮮より献上の迴金燭臺あり右の方小朝鮮より献上の香炉あり朝鮮の李植撰

日光道場為

大權現設也

大權現有無量功德合有無量崇奉結搆之雄也

殊曾有繼述之孝益彰先烈我

王聞而歡喜為鑄法鐘以補靈山三寶之供仍

命臣植叙而銘之銘曰

丕顯英烈　肇闡靈真　玄都式廓

寶鐘斯陳　參修勝緣　資薦其福

鯨音獅吼　昏覺魔伏　非器之重

唯孝之則　龍天是護　鴻祚偕極

○崇禎　朝鮮國禮曹參判植行司直吳敬書

此撞鐘小接元正月三ヶ日御祝式の時鳴とるり日左の方小阿蒙陀

仏の寄進せし鉈基あり其制法日本の鉈小ろりあり中元あく又琉球

より獻ずる三十六釘の鉈基あり也遠諸侯方より寄納の所鉈基

あまたなり日所西の方小

○御本地堂本尊薬師如来三列風来寺保の系作と拵し二菩薩

十二神將を安置仏御殿仏伽藍にして矢羽く柱金様巻長押の

地紋小ゆるまでいづれも金張と綿見さり備突殿の天井小天人八

間小陽りなる龍の画あり狩野永真安信の筆なり

○陽明門　但し武士を此所小そ刀を帯そて門内入べ

此御門柱を彫るも

様小裏の陽明門を模と表小御遊身左

右小なり極彩色なり裏小風神雷神御門の御額八

後陽成院の宸翰なり傍に勅額門とも云ふ此御門の結構比類なし
彫物ハ琴棊書画あるひハ周公旦織機費長房盧敖琴高阮籍許由康
豊干王子猷孔子顔回をはじめ其外二笑四友六侍九哲に至るまで悉く
記すに暇あらず又欄上に惣而生れる貔虎龍麒麟獅子猿いづれも菊本
の端に刻めりあるハ其すぐれたる所もなつてあるハ鳳凰孔雀其外鳥
多し日本九会獣なりとも是にも程よく極彩色なり間ごとに鍍金のかな物
輝けるさま雲に光輝きて云ふべき言をしらず中の通りハ天井まん
絵ハ狩野探幽守信の筆なり空の間ハ天井ハ天女なる画にて左右の御回
廊折廻し百間余あり彫物ハ楽天ケ好む獣が此君又丈を好む梅枝杯
あらゆるかぎりなし此御門を入て庭上に敷ける東面を猶門より西へしく
悉くたの方にあり

○神楽堂 毎日八乙女出仕して御神楽を奏す門前にあり

○護摩堂 本尊五大尊明王十二天を安置此所において正五九月十
一日より十七日まで天下安全の御祈禱の護摩を修行せらるゝ

○御唐門 本木ハ唐木にして御柱ならびに上り龍下り龍梅竹の彫物金具繁し御門の
破風ハ許由巣父あり又ハ七賢七福神等彫物あり天井ハ天女の彫物なり
此御門ハ総て唐木彫を以てつくり言語に述がたし此所の彫物の至って巧
妙なる事記するにあまりあるを以てなり二枚の板を其ほかに継ぎたるものなく
いかに細かなる所とても余の木を用ひて継たる所なし扉に細工の獅子牡丹
に入る其の正御座所のよこに唐銅にて基より上迄彫りて中御門の左右ハ

○御瑞籬 此彫物ハ千草萬花あるいは種々の鳥ども本間に遊び鳴く鳳
凰随美を極むるなり

○御拝殿 錺は二所にあり参詣の男女ここにて拝しまつるなく
御菜屋ハ三十六歌仙をかけり御所に有
後水尾院宸翰なり絵ハ土佐左近将監の筆なり此 御香座の間ハ
両方とも異邦の香木香樹を集めて造りたる六偶此室より上への漆光

ぞうふ衣袖のぼくぼくたり檄蘭を拔たして其手をうち敷日敷まこん鼎ふ
鶴羽毛の鍬金玉瓦脚くまく自然と為る事に見へく花鞭人とする氏勢あり
奥平氏云 按十一間 長一坂の石垣八ぬ間 丼ハ見るふ
御本社 石垣高 坂二紙ありしかるに今はかくなれば
○山御宮仏下の美素なる事日本第一形り
芭蕉葉おり花ほと這ふ
卯月形る御山の姿を往昔山代山荒山と書し弘空海大師冠表
○のゝ紀日光と改光の山ゝ嚴未来をたゝしう給ふや今山神光一天ふ
明廣きて思沢八荒まあつて民安流の栖稼りて牲豚うまくて多きと
代一委也
あゝたうせもち系ある業なんりの光を
御本地ゝ薬師瑠璃光如来の垂仏相殿ゝ摩多羅神山王権現あり
毎年卯月長月の御神事あり卯月朔 別帯使ゝ
○宣令式抄ゝ所又 御名代として高家方奉勅月ゝ
諸家方二人奉勅社の御祝式奉ゝる年八月端小安ゝ一正月九

月ゝ 御座主の宮城ゝ光ゝ一山の僧侶社役の面ゝ僧人出仕
あつて天下安泰ゝ御祈あり
○奥院御本社の後ゝ 御寶殿一宇紫綱ゝ御殿
の御文庫ゝ山所ゝ貴職ゝ奉行
御宮ゝ下向して二王御門左の道先ゝ
○御別所大樂院山所ゝ毎日 御宮神供供備ゝ
堂ゝ二丁餅馬陽光右の方ゝ
○相輪樓 弘法傳教大師六十四句の御願文を記して獄ゝ
日本六所ゝ建ゝ
盡ゝ紙ゝ慈眼大師尊ゝ御建立ゝ
人倫ゝ及ゝ金獄草本ゝ佛墨紙ゝ
法源ゝ本尊ゝ現在ゝ
免人半ゝ

○新宮の鳥居　御額正一位勲一等日光大権現と書く　一品宮公寛
法親王の真筆なり
○三佛堂　當山一の大伽藍なれども寺号を志賀大師の御作と日光二社大権現の御本地
記るすのみ長八尺の守護千手観音　馬頭
尝なり又堂内乾の隅に勝道上人の御彫あり良弁方に軍荼利明王
の像なり共に行基作と所伝なり
○常行堂　本尊は宝冠の弥陀四菩薩後に摩多羅神を移す此堂
に頼朝公の御寄附状は兵火に焼失し後人抑此堂を人皇
八十九代孝天皇に御寄附ありし寛平六年の事なり
○法華堂　本尊は普賢菩薩鬼子母神十羅刹女三十番神傳教大師
の御彫あり此堂のけしもの人皇五十三代淳和天皇の御宇天長二年の
建立也堂内に傳教大師御筆の法華経一部納めし厨子あり
不道あり長弁坊二所あり登る

○慈眼大師堂　天海の御廟なり寛永二十年十月二日遷化し給ふ勝道上人
より五十一世の御座主なり中興の開山なり尚ほ後代あるべき事共不易
の基成べし
今の仁王両大師御一体なり
○鬼子母神　本地大師の御像なり御殿の内人本水舎あり
庫方より上へ石燈籠あり右の方に道なり少し上り
○亀井水　○稲
荷社○石像の三尊の佛あり内所左の方に高山　御産生御廟あり
本殿院宮　久遠寿院准三后　解脱院宮　大明院宮　等の御石塔
あり内所○文殊堂大師の御本地なり求聞持堂なり
○稚児堂　○御別当無量院あり
○毎日御霊舎忠門に二王あり二天門御額　後水尾院宸筆なり
○表門　○御唐門　○鐘楼　○御神殿其外本堂都て表柱表
御宮ハ皆なり彫物の彩色七変を成す先なり御様の内に法華経
上の石燈籠九五百基御あり又朝鮮より献ずる金燈籠あり此御書

為ふ事絶の者を洗ふなど因所山の方に別所龍光院とう毎月御膳
供備上
○新宮大権現七八棟造りて殿ゝ多殿あり日光大権現也称しまれ
○熊神社大己貴命幸地を千ゝ祝ふ社を仁明天皇御宇の御祥
年中慈覚大師の御創建ゝ九品国中の大社なり〻〻恵藤ゝと
見しとう此権現の御利益五穀豊饒福寿家潤の御神と神変
○御ゝ切丸を刀せの御を此を刀拍を刀いつを也天然あり て霊剣なり又
小山刑宮ゝ者しなる獲田其外玉簾〻〻琵琶胡琴一つそなる二百目
あり 頼朝公の御願書を社の奥列泰衡追討のとき祈願〻と其外
○竹寛あり〻〻とり中ゝと勝道上人此権現〻御対面の時衣の裾ふませ
中ゝ御神体も此社ふ収まれると毎歳二月二日五月廿八日とう
三社の神輿を御殿ふ御上供まれ奉るゝ妓楽と来日とう祭右〻
○其日ふ又りて夜宴とぶとう親者〻其所他異あり て神面此いと先

事に神輿を年宮へ神幸ふ移ると三仏堂のあり て延年の舞〻〻ふ
幸あり一山の衆徒中出勤とう て面社此如くたの方に
○金剛堂たり○慈覚堂本造形り幸る慈覚大師の御祈願〻ふ
三十番神不動尊此安に○御供所あり
○新宮別所安養院文殊の像千手の像たり常行堂の東方あり
○新宮末社○十八王子○田比沙門長五大行 ○山王社
○阿弥陀堂 慈覚大師 ○三尊石 此石を大千度行者 ○大黒堂 道場の
○十王堂○地蔵石 右の方滝尾の道ふへる新宮とう滝尾中そ十
二所谷あり小坂を登り中行ふ
○薬師堂此所とう霊泉湧如れと神代ふ服此院生所とう流く
○行者堂坂のとりにあり幸る役小角を安ふ本道公祭あり
○石橋あり 此筋遠橋とう二間 それとう一所行り

○山王社　向ひ造りの社あり　年中惡魔人時の
御遊覽なり
○不動堂　本尊明王二童子共に運慶の作なり　此向ひに滝尾と云ふ
瀑泉あり石階を出でて中行く　○二宮赤倉神の石造の祠あり
たの方に○坂中石不動堂なり　○鎌倉板にて着供養の場なり
其坂の上に○御別所山所にて日光責にて食物なし　若し其
食物あり人強奪する事なし　捨籠形の責道具あり　二階に
うけ石あり又大樹管あり　此所にて別所くさりて及び坂中町
中にて山寺あり　此所にて初く年代系の法度方大門の寄木に張紙のたり
なり　又日光の御所地にて参る婚礼新宅なるべし　此式は必日光式
ふこと此所に少ある事にて其人の法名長利橋と称せり
いろ〳〵民家の地蔵尊を所々にて御別所あり滝の

向ひに地蔵谷とあり
○正親町堂　本尊長五尺修行三十番神例に
○採燈護摩所　本尊石像不動尊　此人峯の修法躰なせる護
摩あり　雲弱あり　いろはの別所あり
○石尊　此石の方に弱法あり　落ち接向ひ
○樓門　表に二王裏に風雷の二神を置り　家を弘法大師の御筆
て女躰中宮と称り　此門入て御殿なり
○御本社滝尾大権現　祭神田心姫命　本地を阿弥陀如来　向ひ造
の御社あり　拝人皇五十二代　淳和天皇の御願なり　御造営あり
當山の守護なる奥殿を當社なり　佐御神　殿内を
弘法大師の御手なれた銀石不動尊の石碑　此名碑　祭る
○二王真御寄進の面あり　天狗の如く　火の如く　玉の如く
○代寄品数多あり　御本社西の方に

○千手堂 宝形造 本尊長六丈 弘法大師の御作

○本地堂 本尊阿弥陀 観音勢至の三尊 伊恵心僧都御作 又日本

に三舞の本尊 此所渡の方ふ

○根本祠 小祠 ちこ 西の方への道 ちこ

○子種石 本尊 子なき人 此石に祈る 霊験有

○ちこ基 ちこ

○酒泉池 此池亘七尺 ちこ 酒湧出る 世の人今ふ

ちこく 酒の香ある泉 口元出る 此中にいまた人造の社 雑財天如人

○三年杉 本社の後ふ あり めろ ふ石の垣 ちこ 三社の神 本にく 日光の三所

ちこあ ちこ いづれも大木 ちこ 中九一株 枯 枝 ちこ

○三十番神堂 法華経 六十六部の経 ちこ 下 向

道のくこに ○仮盛板 此板 本 ちこ 枝 ちこ 下 ちこ ちこ

ちこ ○杉 御門 ちこ 木の ちこ あり 又 左の方ふ ○御神

○馬碑 ちこ 御 籠の御 馬の碑 ちこ 長年中 濃州御陣の時 此馬

ふ ちこ 御 勝利 ちこ 碑 ちこ 碑 ちこ 里 ちこ

此石 昔 御 現の御 ちこ

○高 ちこ ○外 ちこ 毘沙門 ちこ 山 ちこ 鬼門 ちこ 寺 ちこ

ちこ ちこ ちこ 二月 百 ちこ 形 集 ちこ 山 ちこ ○ 水 岩 ちこ 月 ふ

を ちこ ちこ ふ 又 ちこ ちこ の ふ ○ 不動 ちこ ちこ 山 ちこ

○七 ちこ ちこ 水源 ちこ 別 ちこ 七 ちこ ふ ちこ ちこ ちこ

○天神 社 ちこ 尾下 向 道 石 の 方 山 ちこ ふ 石 造 の 社 ちこ ちこ 寛文 元

年二月 廿八日 菅原大臣 ちこ 氏 法眼 信 出 流 ちこ 宰 府 の 霊 廟 ちこ

ふ 模 ちこ ちこ ちこ 精 ちこ 延宝七年 六月 ちこ 山 蘭 ちこ 信 ちこ 石 の 社 頭

を 造 ちこ を 神 ちこ ちこ く 霊 ちこ ちこ 流 ちこ ちこ ○十王堂

○地獄堂 宝 ちこ 造 ちこ ちこ 所 ちこ 仏 ちこ ちこ ちこ ちこ ちこ

ちこ ちこ ちこ 勝 ちこ 上人 ちこ 御 ちこ ちこ 十 ちこ ちこ ちこ ちこ ちこ 地 ちこ

蕩陰の再誕なりとぞよつて此所に立給ふ姫を宇山霊とも云○裏
上人の廟所弟子衆人の墓あり上人の御骨を中禅寺上野嶋に納ま
つり
○御産宮 向拝ばかりにて本社ハ本地普賢菩薩なり此所にて妊身の女
立願をなし安産を守る所の伝あり
○白山権現 本地十一面観世音 拝殿あり坊舎の前を通て中禅寺へ出る
○小玉堂 本社并拝殿あり本社ハ星の化神又此神の御本地 秘
仏なりすなはち妙見大士なり此所ハ本宮の境内にて石橋を渡
て本宮造の堂あり
○四本龍寺 宝形造 本尊ハ千手観音なり前に五大尊勝道上人の安置
を南山峯入の時上人ここに住居し給ふ霊跡なり
○三層塔 本尊釈迦文殊普賢を安ず
○御本社 拝殿あり祭神 味耜高彦根命 本地仏ハ馬頭観音なり

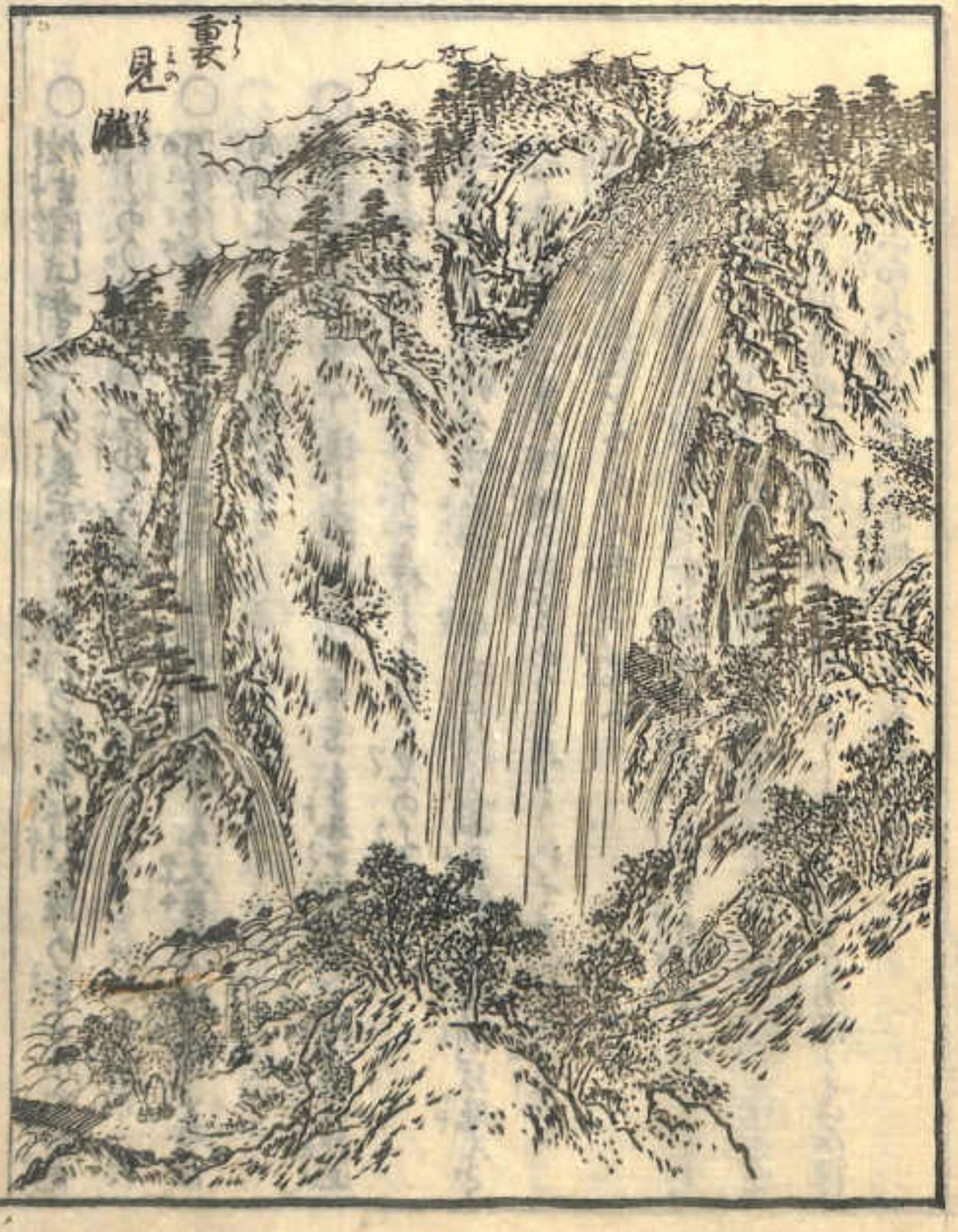
大同二年勝道上人此所に勧請し給ふ本社ハ宇都宮と御一躰にて
又宇都宮の社傳に大己貴命なりとて当社御神ハ専ら武運長久を
祈るの御守護神なり神威いちじるし下野の大社なり神宝に神明の
御作の十一面観音中将姫蓮の糸にて織たまふ佛画の幼枝珊瑚珠等其
外あまたこれあり末社多し○辨天堂 并に 十五童子 ○鹿嶋社
○本地堂 馬頭観音 ○山王社 ○稲荷社 ○抹燈護摩所 石像
不動大日薬師を安ず○鳥居ありて○三十番神堂 又経蔵あり
○別所 此所にも日光責の道具有りけり面を
十一面観音に出来して観音経を読みて三の別所なる最底
の間にのこる秘密の護摩所の間あるを其かぎりとせり経み佛の経蔵
て建立をなす様不浄の者入るを禁ず不思議なることをしるせり此別所
のあり方森の内に
○三宮 本地普賢菩薩 ○一宮 熊野権現 本地文殊菩薩 此辺社へ御旅所あり

○上ノ小路より後町へ入り神橋の北に下りて西右の方舎うしのゆ西町への
道とり大谷川の川端を通り行くと又こなたうの方猫ノ川をつゝう七
町ゆく行くと天台律院あり奥雲院と號し西山御座主の建立なり
本堂弥陀仏社修理社経蔵陸門多建立清爽清浄なる霊場浄
土養の仏界なり御新造成光殿一ノ法報主の居なり
○南谷 西谷 善女寺谷河上より神橋より西ノ方へ向て
町へ出る 四軒町 石町 小袋町 本町 上中下 大工町 上中下
板橋町 蓮華石町 此町の手前より西海沢へ山へ高橋あり
○此道院 石町の端にあり此寺一山の若枝所へ寺門ノ○釋迦堂
弥陀仏の釋迦仏 文殊 普賢 弘法大師の御拵
此堂にて常行念仏 念仏堂のうしろより○愛宕権現 毎月日の
供ゆうの山へ成出へ町頭より○八幡社 西町の端にあり
○六地蔵堂あり此堂のうしろより成成通へ家光寺へ切通あり神橋より

鶴光寺で三十町ばかりあり此道入口の脇より
○延命地蔵堂それより七八町ゆき○地石此石の上ノ下ノ方なるあるあ
ゆふかくいなり又信の宮あり一ツ生ぶとせり名馬此石の中ノ
出へゆ馬の鞍乃痕あり○そこより六町やどりへ鶴光の地ノ入る
此入口ノ
○二本杉 山一の大杉ゆへ大ナ牛成信仏とて道筋横へ二ツの木あり
せり此手前より手前あり
○常行念仏堂 本堂六七間程の方
安仏此堂にて釘念仏の札出る又鉦ノ此所より極楽ノ
常住不息の念仏鉦ノ此堂門内念仏の祖師光源上人の所拵
上人鳴王より時不せ仏様の印文出るなり此堂は鎌倉ノ前ノ
堂の西ノ方へ向へ高札
○求聞持堂 本堂 虚空蔵 善光 慈光の御作なり新造

○一品親王の真筆なり こゝを右に入て神山の方に○三十番神堂又
ゆし登りて○不動堂○三尺赤倉の石社あり又少し行く
○鎮殿あり
○御本社寂光大菩提 本神 下照姫命 辨財天女なり 両社を
弘仁十一年 弘法大師の宮を奉り 付宮に十二の子 稲白鳥 その外
あまたなり 石の方に流れなり その源遠くして 指ふく 輝きたる
尊の帝 武 牺 ところ なし 流の右に小出る山 岩窟 左の方 ○
瓦工 咒 逃の梵字 武四字 空海 を 窟 ゆ 出 上に ○二子 に
○大 山 奥に入 く ○冨士見山 あり 山峯 より 冨士 の 見 ゆ
ゆ 武 ば
○川 候の温泉 ところ 女人入湯 ところ 所 寺 往 ところ 下 て
○別 所 あり 寺内に 辨財天十五 寺 ゆ 武 ば 寺の 長の 方に
○羽黒滝 これ より 見 西 の 原 所 より 中 所 大工 所 を 通り 森 の 中 に

本第六ノ二十一



○[illegible]山の裏にあり横門の新を弘法大師の書あり[illegible]
門にあり此寺の名称は[illegible]
○阿弥陀堂中に弘法大師三尊日の御[illegible]
向河原にて[illegible]
○慈雲寺神楽より通十三町[illegible]
あり寺の前に大石川あり[illegible]
○護摩堂あり此所合隣の間[illegible]
五つ此数の間の巻不幡給の梵字あり[illegible]
○石像の地蔵其数と[illegible]
○霊鹿閣此閣より眼[illegible]
蓮[illegible]
揮[illegible]射香乳香を土に和して泥[illegible]
[illegible]

○骨堂[illegible]人の骨を埋むその上に[illegible]
○碑あり[illegible]
の間[illegible]
又[illegible]
[illegible]
高此[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]
○二宮山垂[illegible]
○金剛山[illegible]
○[illegible]
[illegible]
○[illegible]

○中禅寺の道筋神橋より中禅寺迄三里五町ほどにて右の間毋沢の橋をわたり川ぶちを○蓮華石所坂と登りて○地蔵堂あり所の中程に

○蓮華石とゝ名あり此名あり右の方本道の内より○十八王子と称する所あり

○のゝとゝ名あり此名あり右の方本道の内より○十八王子と称する所あり

○の橋をわたりて三所ほどく右のかたへ久二名村とゝ名あり

村を社家所あり山所に○業師堂あり業師堂日光月光十二神

将十王尊衣装等多し又神明宮あり蓮華石所より二所ばかり行く

左の方より○大日堂あり堂内に千躰仏安置し内あり

地蔵堂あり山所の池に亀の像に似たり乾に頭北向に水流れて早村

橋より出川の地なり偶ま坂に来る長谷寺として風光ひらけ又

大日堂の別道より右の方へ道の程二十町許少あり

○裏見瀧

○北條山岩登り瀧あり岩間の頭より飛流して百丈に出る

岩潭に落ちて岩穴を穿ちて流れ出る瀧の裏より見る

瀧とは人作なるや蓋し初也

此時を瀧に絶る時を瀧に

此瀑布泉高さ十四五間許幅二間ほど岩窟の間より飛流して

の方へ走り中猛獣の勢ひに似たり傍より裏へ行かれて遠

ざかるのみ中なる岩窟の中山にて見る所に

名づけ上に荒沢不動堂あり天下に飛泉多し中にもこれ

より見る瀧なり小沢に流れ出る花帯文殊窟山の瀧の傍に自然閑に下て

飲寒創天水倚て立つ

又此側に小飛泉二つあり

ある石なり右の方の中形なり

○鳥井原地蔵堂あり砂子沢橋をわたりて向ふに○産れ子地蔵

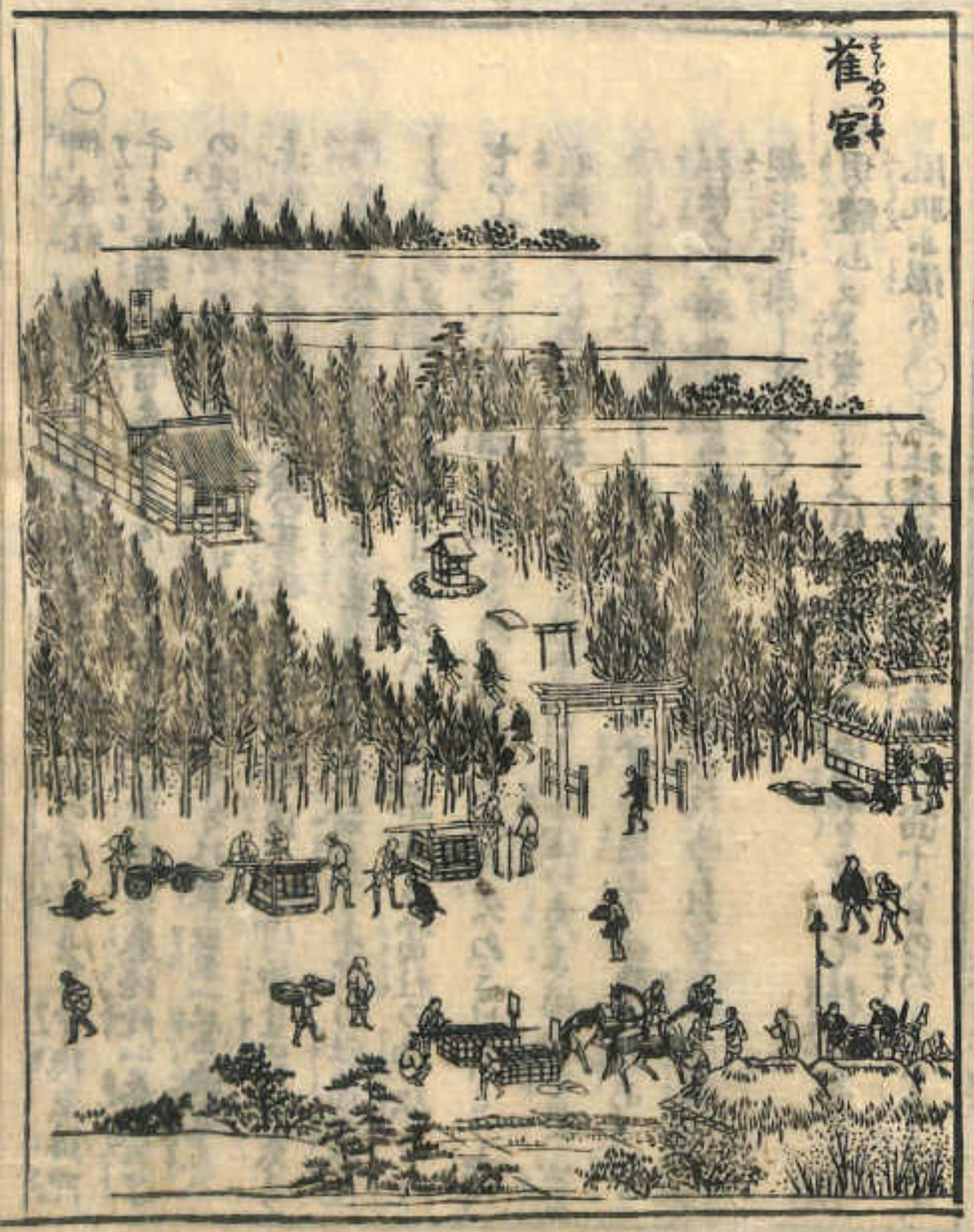
○清瀧寺山神を勝福山○鞍懸山○頻伽山あり砂子沢より

大石搬出

日光道街
關所

号を氏寺浄土院の寺号を授ル浄土院の住職は寺院なり
越年あるなり寺内に
○清滝権現は神仏習合の所神なり天竺熊野の所山王全世界神を崇め仏法擁護
の所神なり正月三ヶ月の間精進摩訶般若あり山宮のうち為叢屋風式
を立てるなり飛泉あり○清滝より下り民村又八所往
ゆく
○観音堂なり幸尊なり観世音なり勝道上人中興なり本尊観音の
うち本尊を開く開帳なり上人長七尺許なり中禅寺に女人結界なれば
山所より参詣を女人為度く結界あり七ツ坂東十八番巡礼の札
所なり右の道○足尾村より上ル所へゆく道これなり
五里程なり足尾銅山通り上列へ切り拵新堂なり右の道この道
三所なり水沢村を過ぎ坂を登りて石社あり○牛王坂
より下り

○馬場より牛馬代へ乗り少し行くなり又女人も乗り結界なり
これより日光迄二里なり小溪あり果樹園あり
を巌石なりて歩行し溪あり河原の石多なり
百丈程なり上路程なり上て高しめて嶮難なり登りて天平と云
所なり
○石動堂(石像)馬場なり
ほどなり滝水あり
○神仏石尾なり前なり
○牛石なり平の形なり
補陀洛山中禅寺 日光より三里半
別所 俗人なり



五雲峯あり実ハ天迦ゝして星河半流侯して温ひ雲流して風雅
雲ハ八くく環ゆ春山の時ハ紫ゆ秋ハ紅葉ゆ
とおりて紅葉ハ八ふうと飛くゝ

○湖水長サ三里惣二里あるひ之一里半の所もあり江面ハ繁樹傾行
あり又く湖上ハ八ゆ流上ハ八ゆ共高系ゆ水面ハ深まんゆ春ゆ
深ゆ花ゆ魚鱗ゆ

○ゆさ紀湖ハ千八湖あり此高山の麓ハ湖水ある事一奇異ゆ

○霊地ゆ

○陵樹○不動堂本尊ゆ五大明王○妙見祠又夫王のまつりも共ゆ

なり本地龍樹菩薩ゆ

○立本紀高雲本尊ゆ千手観音長一丈
六尺ゆ

○ふ江天王の像あり岡崎勝道上人立木を其体ゆて開刻し
ゆ八ゆ像坂東十八番巡礼所ゆ

○例ゆ元年五像ゆ弘法大師の作ゆ此又勝道上人の像新あり

○御本社　お殿あり。当社大権現七月光三社の本社也。本地は弥陀千手馬頭延暦年中の御造立あり。神宝は横巻地獄一巻金字の法華経一部八葉蓮一面水牛の毒蟲象牙の軍扇一管海竜王乃赤衣一領吾無畏三蔵の菩提子は殊救勝道上人御誕生の三尺天竺隆寺の陽杖其外ふくあり。毎歳正月四日武射祭とて社司登山して上列赤城の方ふもとに紙を敷き赤飯を當社の神敬する中古は武蔵赤城明神の麓あり。産まれし日矢ぬきされ佛となる武祝詞しくかの矢と抜しとの事これあり。行く赤城の産まれし山へ登れば長山荒所とのふ本社の北の方に男体山あり登る道あり。武前より碑あり。弘法大師神陀洛山の記これあり。中古紙亡にもろもろを准三后公雑法親王再興し給ふ。

○男体山又黒髪山とも武山より登るふ道巍々おそして猿害多く寒風肌を徹す。○三社接現山頂ふ立せ給ふ。四十八日の内あて毎年七月七日武峯に登ふ。武時日より中禅寺別所あり。番ごと一七日ゆのさ移りくの切りあり。て登山し三社拝殿しまる信心あるべき人奇美の霊験を降り給ふ男体山道武三河也。

○戒壇堂本尊は釈迦文殊普賢なり。武前ふ三国の土拝御ふ本社のもとれ方

○根本社○摩伽羅天○山王社

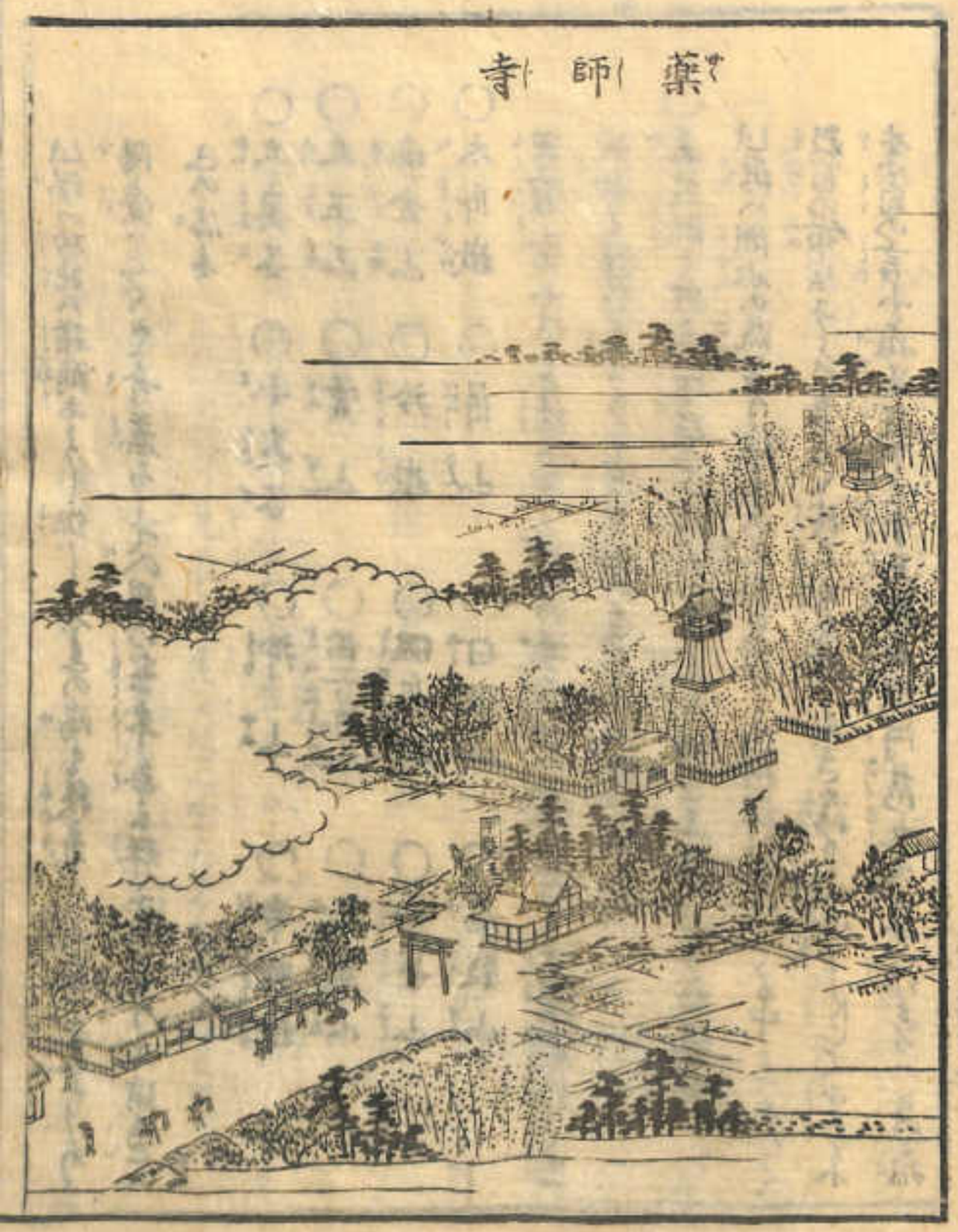
○三層塔本尊五智如来○採燈護摩所

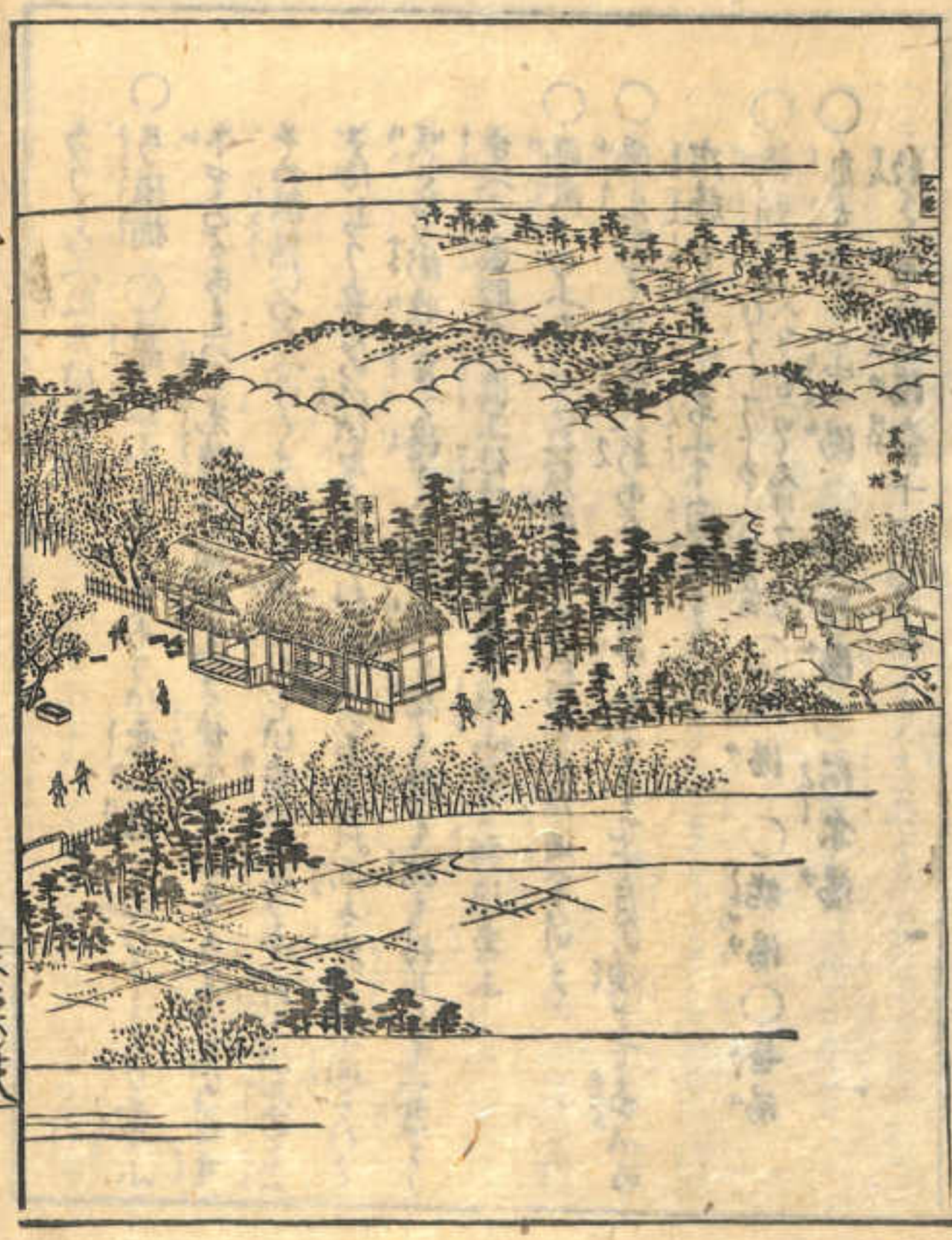
湖水のひろふを過ぎて見ぬ白屋

○歌の浜　これはむし神軍に討勝なまひ武前ふ御凱陣あり。て法軍に神建ら宮参拝武御ひのふ少ふ下り名付るとて本尊は右禅天女弥勒菩薩金剛童子等なり。又元仏の入峯山伏の宿あり。毎年三月十三日入峯し四月廿三日ふ出峯に元仏峯を元仏峯とふて参ぜ旅り形ふて向ふの峯ふ見ゆるは

○寺ゞ等 茶所堂 ○日輪寺 五大尊ゝ ゝ勝道上人の法孔あり
○上聖堂 湖中にあり一町許の海なりと勝道の法眼は法ふ都まり
○桃字石 ○龍燈石 ○俵石
○千手院 記る書あり ゝ御供所あり 年ゝ千ゝ記ゝ勝ゝ この法地
なり毎年六月朔日より七月十七日道俗一七日の行ふく法師定ゝく
私ふ茶ゝ茶々の名係拭巻 信心堅固ゝて落とれば其身の祈
禱ゝる山時ゝ石の別所ゝて一夜籠ゝ ゝ拭ふ茶ゝ ゝ年の別ゝ
ゝ帰ゝなり新ゝく山法ゝの風茶いゝん方ゝく風ゝの名拭長ゝ法ゝ
○風風水 ○紅葉浦 ○ゝ ○大寄 ○大屋
○宇津滝 ○菖蒲沼 ○獅子ヶ淵 ○金ヶ腸 其外名不多
○湯本の道ゝ別所の茶拭通ゝ法ゝ拭一里ほとりて高蒲沼ふゝ
茶屋あり ゝ拭り
○赤沼原 弘場原ゝゝ山原方二里もあゝ人ゝ者ゝ山の御神の弘湯

ありゝゝ拭ふ山ゝ
○弓張橋 ○幕張山あゝ ゝ原に鶴一羽ゝ ゝ常ふ
下ゝあるゝ六日光持現の神名ふく使令ゝふ年毎ふ拭ゝ世世
その雛鶴いづちへゆくゝゝ
ゝ原なりゝ五月の山ゝ聖拭ゝれゝ ゝ番のゝ法ゝて法ふ山原を去
法ゝ原ゝ御暖寺ゝ法ゝく一附ふ開く梅も桃も桃も法ゝも一度ゝ
文へゝく盛形ゝ真ふ仏境に ゝ ゝ ゝ物は色ふ
○湯滝ゝふ山ゝ ゝ拭陳見ゝく其ほゝ拭通ゝ
○湯元八ゝく湯寺八彩ゝ ゝ三月中旬ゝ九十月の頃ゝ ゝ八の
店旅舎ゝて茶寺自由ゝ
○御所湯 ○ゝ ○滝の拭 ○滝湯 ○焼湯 ○蛙湯
○自在湯 ○中湯 ○茶所湯 ○河原湯
彩ゝく湯八ふ湯ゝ十一ゝ


藥師寺

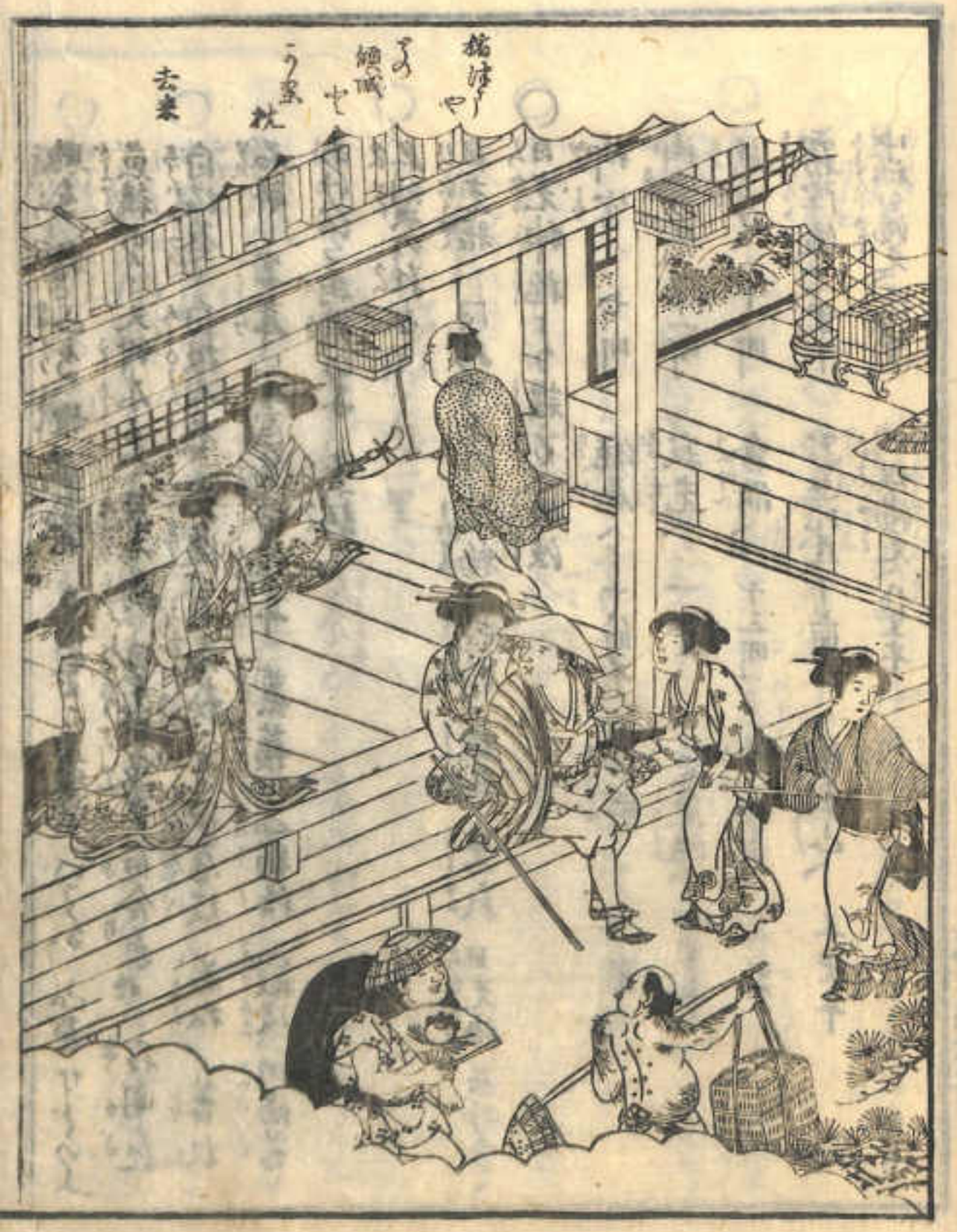


此湯の功能ハ諸病によろし但しぬるき湯も積気と美顔には忌なりわ
湯壺ハくつ有青葉にして七ツ湯の字年毎に辨まへけり又此辺の
山の名ハ

○大真子　○小真子　○弥山　○帝釈嶽
○大王山　○雪山　○西二荒山　○三笠山
○赤倉山　○鈴嶽　○温泉嶽　○女峯山
○太郎嶽　○月山　○白根山　○湯殿山

男體山の山外れにて後なり出羽の湯殿山を移せる故に裏湯殿と云
此勧請ハ此所へまゐる裏見瀧の道よりも此道を行くべし
○華嚴瀧ハ飛泉也中禅寺の帰路より大尻神子石の所より又六町由くし
此瀧ハ湖水の流れより山道の大瀧にして樹林繁茂したる中より落る
数百の布を垂るゝがごとく其天をはしる高き事実に
李白の言に飛流直下三千尺疑是銀河落九天ハ此瀧を作まへるが如し

泉水を比せんや其飛瀑を除てハ目なるものは再びみる事能ハじ瀧の
ほとりハ奇樹霊草多くして花の咲く美景なり此所より
○太平不動堂の下へ出る也
右の傍く日光山中の霊境梵宮はるかに望して巡れば都合五
六日も掛りてもせざれば委くハ録し難し續古事談云下野國二荒山の
嶺に湖水あり廣さ千町あまり清くきよき事類ひなし樹林四方にめぐる
雖ども木葉一ツ水に浮まず又魚をもなし若人魚を放ては則死す
まだく出る也二荒の権現山嶺にすみ給ふとぞ
○日光名物名製
慈悲心鳥　慈悲心と鳴く鳥也即雀より少し大なり尾長し又夏
啼く也又三光鳥あり尾長し是も其声なる鳥也月日星く
と鳴く尾長鳥とハ遠里又けらつゝきなるの嶋のあまきおらいんこに
似たり木にも住みしたるもてしつくしもしに住ハあらんかな



本号六ノ三十

駒ヶ嶽　山ヶ嶽　雄　栗嵐　〇ゑび　魚夢　いつか　山蛭　けごろし
魚鱗ゆり　又州本草　日光蘭　日光生薑　百合　ほうき　石南花
白根葵　白根人参　美蓮　日光菊　千手原皮　若松　若松
石斛　岩菖蒲　ずいの草　雅草　墓蕨　山獨活　山椒皮　川海苔
あけび　明鬼の子　素話
名勝図会の記
日光路

日光くさの　曲物　挽物　指物　岩乾　日光漢　長印草

〇日光神橋より諸方へ通法

御宮　七町　滝尾　十八町半　清滝　一里
御霊屋　十一町　寂光　一里　裏見滝　一里半
新宮　十町　倉満　十三町　中禅寺　三里
霧降滝　一里半　地蔵　十三町半　湯元山　三里半
中禅寺湯元　六里　川俣湯元　八里半

足尾　六里　上州妙義山　俗香煙　林角山　小倉川

〇此足尾の方へ行く　妙義山中を　弐十七里餘

〇日光より江戸へ出る道二筋あり　壬生通と今市より板橋へ　弐里
板橋より藤沢　弐里三十町　藤沢より赤佐原　七里　赤佐原より壬生
三里十八町　壬生より飯塚　七里半　飯塚より小山　七里半

〇宇都宮通と日光街道より今市へ　弐里

此間板の列樹多くして所々に民家あり

〇今市より大沢　七里

此あたりの方に松ヶ崎　大沢中七里半

〇大沢より徳次郎　弐里半

此松ヶ崎村　右の方に小山あり　三月の末に
雲霧の日光山より俗し　此山二里に七つの里あり　岩石多し

〇大谷観音　朱印あり　是より半里ばかり

○徳次郎より宇都宮まで弐里半

此街道は日本橋より奥州へ出る大道にて人馬の往来たえず

○と数く疲ふ其所の人に問ひよりあるひく深きまれ出くれと雲人を見て

みる家あり物く宇都宮より栗橋まで七里半

○へ行くこれより江戸まで宇都宮へ入り江戸へ通ふ

○より江戸まで凡七里十六町あり江戸より奥州へ出る街道なり

少人馬の往来たえず駅自由なり食事も東海道に比するけ

○ども乏しく宇都宮の城下廣し所長し結構人家多し此國の都

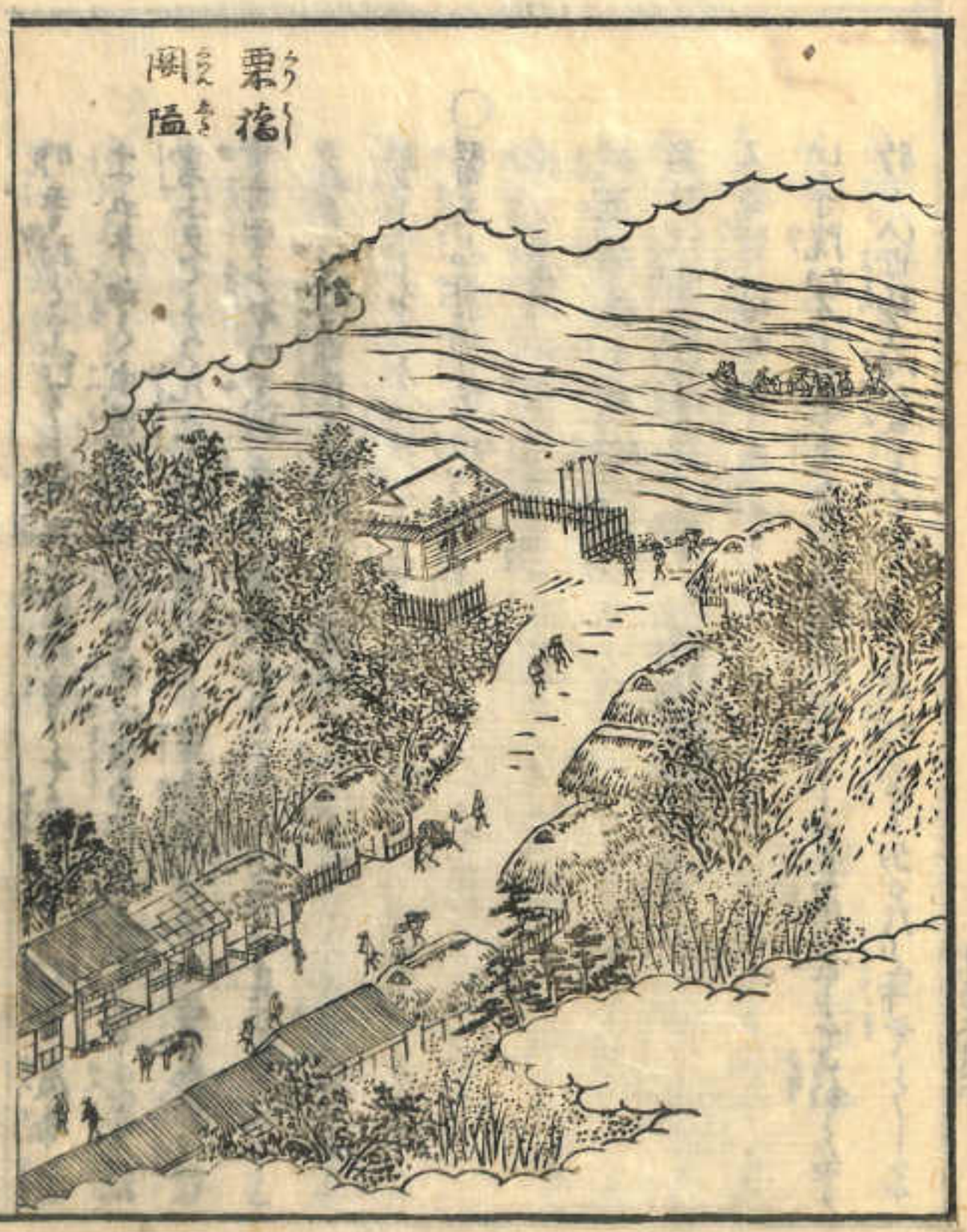
舎かりと花見より江戸道に別れ樹の枝多し凡弐里許あり

○雀宮より石橋まで一里半五町

○此間も別樹の松多し民家所々あり今市まで

○石橋より小金井まで壱里半

石橋より駅半ばかりに小金寺あり即其所に薬



師寺村にいたる むかし下野の薬師寺とて大寺なりむかし廣帝宝
字五年勅して戒壇并薬師寺を観世音寺に建られし事元亨釈
書に見えたり 凡天下に戒壇あるは三寺 南都の東大寺 筑紫の観
世音寺 下野の薬師寺 此三箇所にのみ有て此外に建る事なし ゆゑ
されば弓削道鏡も称徳天皇崩御の後左遷せられ此寺の別当に
なりしといふ 今は纔の小寺となる

○医王山薬師寺 村にあり 下野國薬師寺

本尊薬師如来 長五尺許

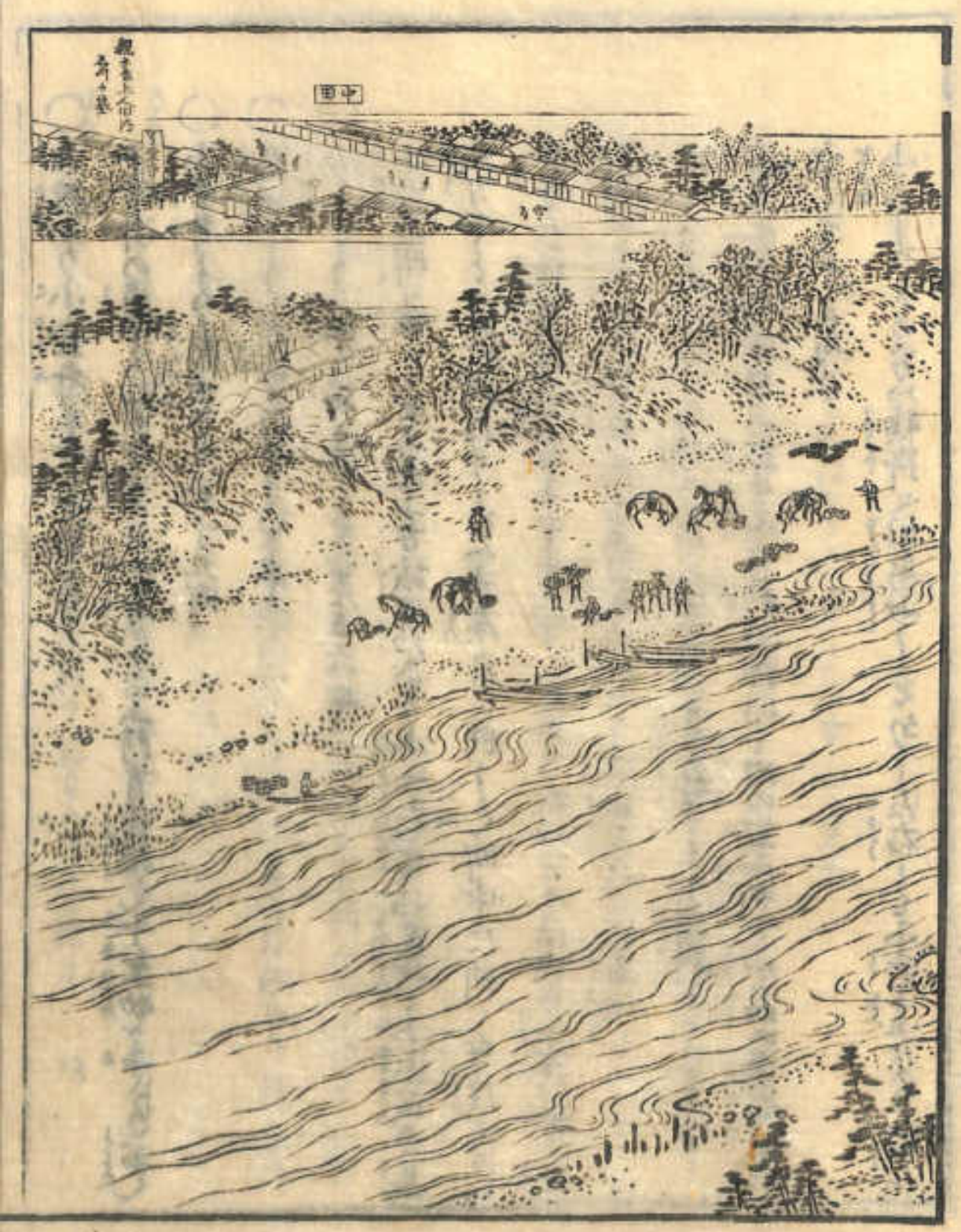
開基鑑真和尚 御自筆の画軸あり

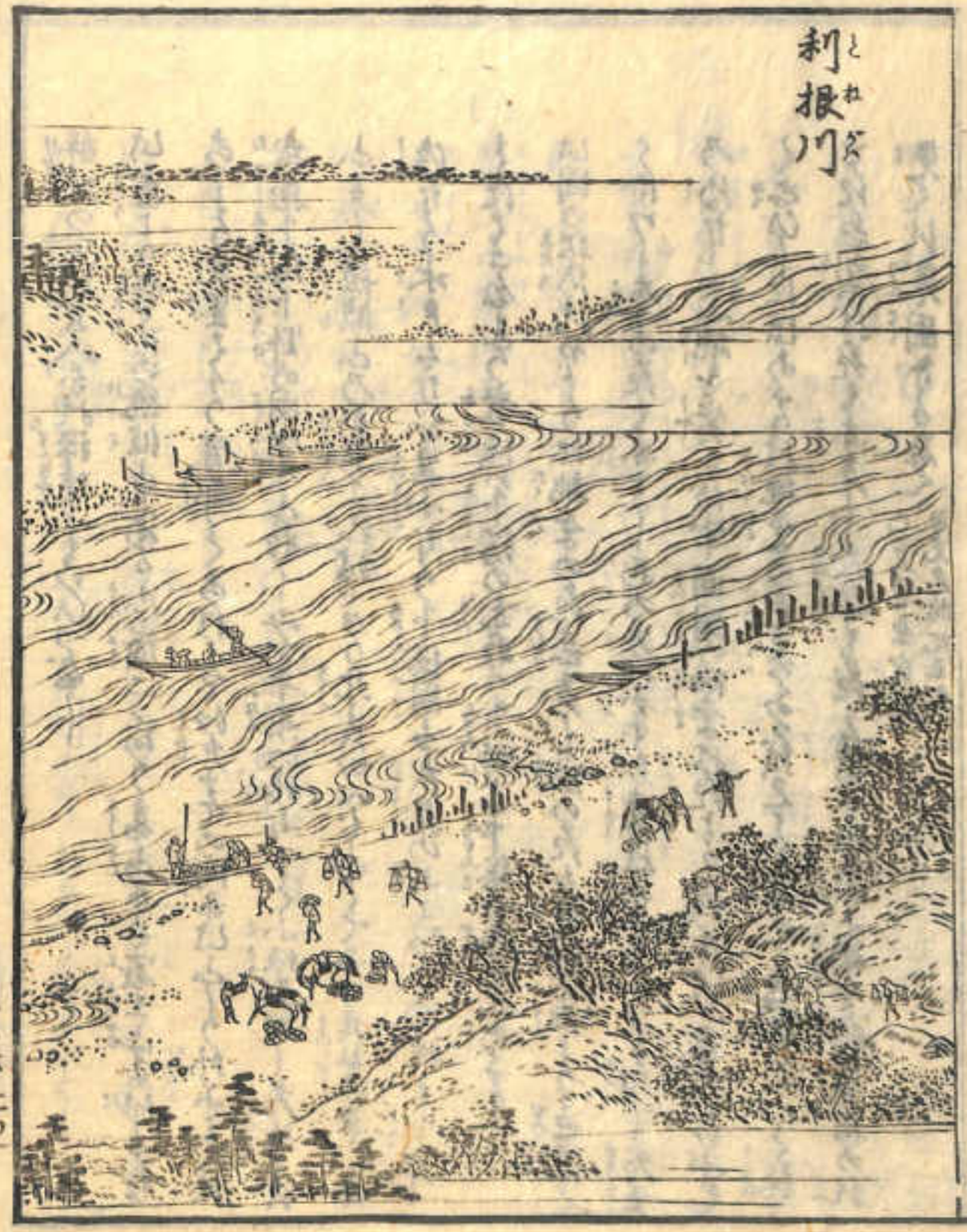
其外什宝に弘法大師の筆なる大般若経 二百五十六巻 目あり

又善賢縁古筆唐画なり

此寺院むかしは最勝を有 勅願所なりしが兵乱に罹て荒たる
ありし世捨の跡多くあり今は少しの村家となるたゞ舞台をとどめし

解脱の空門に入るれ禅境ともいひつべし
此邊より常陸の筑波山見ゆ 山嶺二つありて高山なり富士山に似たり
あるより九里ありて有都を去れども江戸までの間に此山より外にさしたる
武蔵下総下野の國中に山なし みな平原の地にして小坂もなし 為に常陸
山多し 筑波山の南より山つゞき北の方まで山にてありて其様の
添行りて水戸をすぎて其外なりて下総國と武蔵の境たる所にて常陸と下野
とを隔てて常陸は下総の東にあたり下野は下総の西北にあたる
此國の眺望はなれるに桃李の花甚多し 桃の花より李の色漂く
ら洛て李の花も赤くして其の芳しき所よりも李は色まさりて白し 唐土
の名たゞかに桃を愛する唐宋西國の桃李は花よりも実のたべて見るべくいはず
く言ひしにはあらずのれ桃李の色異なる故に見く寒りく思ひたるれば軽
さるにや梨花も甚多し 大様も花を情て此邊に構合村蜜柑の花
見ぐ以寒國なる故なし 已上貝原氏の日光名勝記ニ出


田中


利根川

○石橋より小金井まで壱里半
小金井の道より半里東に千葉と云所有民村し千葉助と号し
○小金井より新田まで弐十九町
○新田より小山まで壱里半
○小山より同く田まで壱里半六町
小山の町長し町の西小古城の跡あり小山判官政長代と小山氏の居
城なりと云所むし人丸廟所あり町中に所々寺院あり
しより結城に小山の壱里半にあり町のうそ氏地と小弾正常陸
武蔵の三ケ国に分属し古城の跡あり結城氏代々の居城なり今も
水戸侯に方八千石領じ給し氏結城に安穏なる様子繁昌ふ
玄義和尚那須野の報生石祈願を給ひ一対の袈裟と水晶の珠数を
中して今に有り
小山より小の方八幡宮に田畠あり左右に高遠なる高小

○東西幾里と云事不知抜間もあり奥州境まで行のごとく此の度此
南国を下毛野と名ぶ事と云事幸也覚る
○同く田より壱本まで壱里三十五町
宇都宮城之まく氏同く田小河る氏所を下野と下総の界なり
○壱本より古河まで廿五町
氏同松の列樹長し
○古河より栗橋まで壱里半
古河の町長し土井大炊頭殿七万石城外ぜ氏城下の町乃東北
堀を通ふ人城を道より見て氏古河の町結まて不利根川の下河の
氏河の西より古河北城に成る古河の口より名所を古跡あり許乃
渡しを書り

万葉 波てしなれの渡り人かとりの書中に歌あり少人丸 侯人云
侯古 為沙たこの渡乃口すり書なれ私くこ渡りふこ也

○栗橋より幸手まで弐里三町

栗橋ゟ関東所あり山間より右の方ゟ利根川あり坂東第一の大河なりうらゝゝくも山あるゝけ人坂東寺即しるし上野下野武蔵下総抜色々隅田川ゟいさうして海ゟへ

栗橋より幸手まで六丁ゟ幸手まゝ橋場を過その巽の方へゆく

○幸手より松戸まで壱里半

○松戸より糟壁まで壱里半

○糟壁より越谷まで弐里廿八町

山日ゟ糟壁ゟ富ん山駅より西の方ゟ開宿しるし所あり久世大和守殿の居城より五万八千ばかり糟壁のそうはきゟ不動尻迄

○関東の山伏の司あり

○越谷より草加まで壱里廿八町

岩槻ゟ越谷より三里中にあり大岩丹波守殿の居城ゟ二万石ばかりなる

○草加より千住まで弐里八町

草加の西北方に綿沼あり廣サ弐三里の沼あり しるし街道より見えし

○千住より江戸日本橋まで弐里八町

千住の駅旅しゝ遊女の居る者多くあり宿中ゟ大橋あり 長サ六十六間 巾 七間

荒川ゟ架る橋ゟ来る西国橋の流るゝ江戸中ゟ大岩川橋

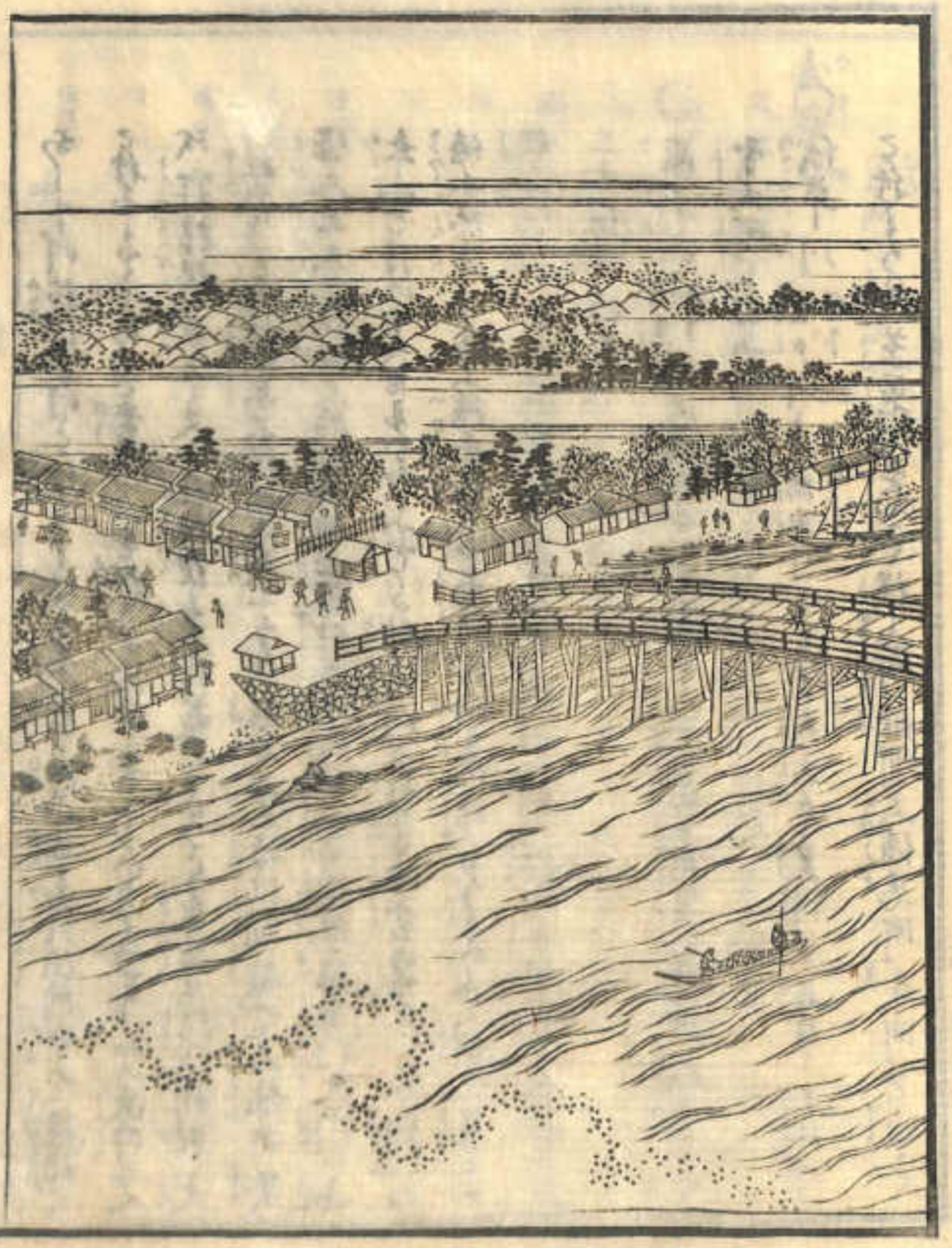
三谷の町成色々新る越河ゟ日本橋しるしあり荒川の中流あり

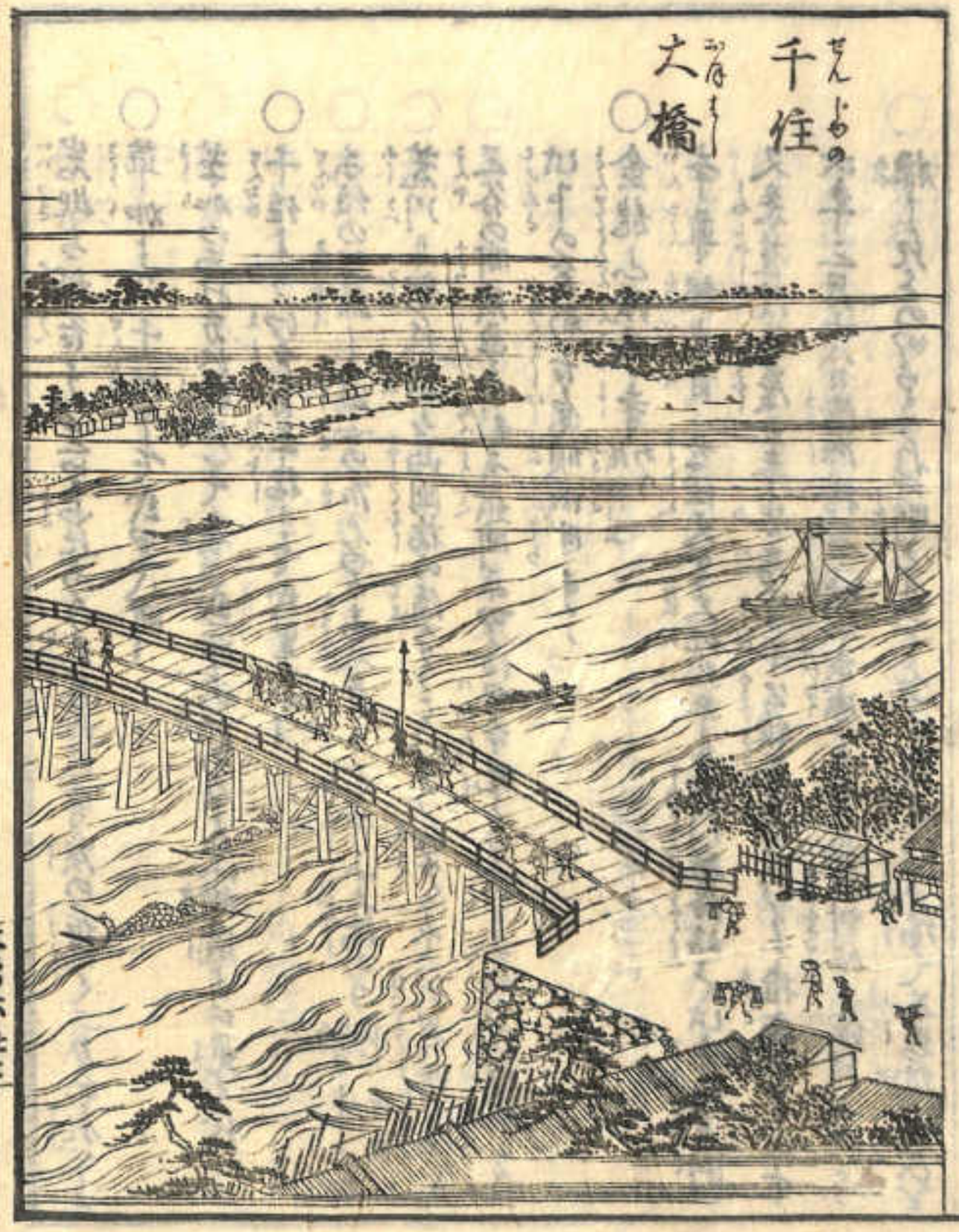
山下の方新吉原傾城町あり

○金龍山浅草寺 坂東 観世音 孝徳天皇大化元年本海門勝海姫く山寺成寺創

幸尊 又朱雀院天慶五年安房守平公雅再興とし推古天皇二十六年二月十八日漁師檜前浜成武成しるし三人成州河ゟ網に上るゝ

姫しるしの所ゟ見れば剛こ五ゝを見るゝ祝言のそる像く不思議のこと




千住
大橋

あしまずげ藻塩焼く煙もしばし浅草寺と浅間の宮まで此所今の一権現と三社宮と申して浅間の前より此浅草の御前三人を祀りて又十社権現と今は祭をとりて毎年三月十八日の祭礼あり此処関東三弁天の其一なり観音堂本堂の脇にあり又本堂大師の地主神明の社五重塔経堂諸堂随身門山門の外に本堂七月の十六日まで四万六千日とて参詣の群集夥し又山門の内に淡島明神稲荷神社弁天の祠あり姥が池旧跡の石あり其外に子院

○ 真土山あり浅草の文待乳山とも書く山上に聖天宮あり山下を聖天町といふ

○ 浅草川の下流なり宮戸川とも隅田川ともいふ上は荒川と名づく千住川

此川より浅草見附を入りて横山町油町大伝馬町本町を過ぎて

武蔵野

室町より浅草の内本橋より至る

続後撰 はるばると分る道はなき秋のむさし野は月の入るべき山ぞなき 貴之

新古今 むさし野や行けども秋のはてぞなきいかなる風か末に吹くらん 通光

同 行末は空もひとつの武蔵野に草の原より出る月かげ 摂政太政大臣

続古今 武蔵野は月の入るべき峰もなし尾花が末にかゝる白雲 大納言通方

同 むさし野は行けども果もなかりけり今宵ぞ山の端の月 正三位知家

同 逢ふ人もなくて目馴れぬ武蔵野の 後鳥羽院下野

続拾 冬の日はかり枯も野辺の草の原遠きむさし野の 正三位知家

玉葉 はるかなる草の原分け行くむさし野の秋の夜の月 法印快海

続千 子規一声ゆくむさし野のはてもなき空の 山階入道左大臣

同 むさし野は末も秋萩の花ぞうつろふ 後入道前太政大臣

続後拾 春もまださえ出でたるむさし野の雪のむら消え 従二位家隆

本芳六ノ卅九

新拾　さくらばのうへにまがふしらゆきを春かぜにのせてちらすなりけり　従二位家隆

同　あかつきのそらにさくらをうつすかとみるまでちるはなのしらゆき　後鳥羽院

新後拾　山ぶきのかげにかくれてなきつるかほのみえぬぞうとかりける　定家

同　雅方卿の帰京のころ　ふるさとにかへりのぼるかりがねのこゑもはるかにきこえぬるかな　藤原為家

同　ゆくはるをとどめかねてやうぐいすのこゑのかぎりをしのぶらんかな　定家

新後拾　武蔵野にいくのの色もこがねかとみるまでにほふやまぶき　足利尊氏

後拾　春のうらゝ霞の底やうるはしき草ぶかむかしをしのぶらん　藤原門院伊賀

千載　ゆくはるにまがふ花のうへにまたかすみのかかるうぐいす　藤原俊成

新千　春ちかくなりにけるかなあしたのはらにかすみたちにけり　為家

文永　むらさきのかすみにまがふ春のあけぼのにうぐいすのこゑ　好忠

霞が開　大名高家にあり　むらさきのかすみにまがふ春のあけぼのにうぐいすのこゑ　奥州御屋敷

後千載　ゆくはるをかすみのうへにとどめかねてうぐいすのこゑ　藤原為世

同　別れゆくはるのかすみのうへにまたうぐいすのこゑ　後二位宮子

新古　いとはるかすみのうへにまたうぐいすのこゑ　東宮の歌合に霞を題にとりあつめる　後鳥羽院

向丘　不忍池の中西の方と　うぐいすのこゑ

新勅　武蔵野乃向ひの岳にまかれて花の雪をあらそふ　小町

後古　羽ぶくよりやはるかすみたちまさるらん向ひの岳ふつりにたつ雪　和家

玉葉　名残月むかひの岳にかすみたちまさるかすみの色の雪　定家

文永　名残向ひの岳の雪にかすみたちまさるかすみの色の雪　源親

堀兼の井　半過よりあり

千載　むさしぬ堀兼の井のあさくとも人の心をくみしるかな　藤原俊成

名所記総目録

平安秋里籬島輯

浪華心斎橋通唐物町書林　河内屋太助梓行

五畿内名所圖會　全部三十冊

都名所圖會　全部六冊

名國神社佛寺の傳記山川幽谷國郡村里名賢英哲の經歷を詳ー名所歌を附け悉く今の風景とそのまゝ俗語ー間く如文事をつくして異盛龍と実ふ全備大成の書こゝ以下名所圖會

大和名所圖會　全部七冊

和泉名所圖會　全部四冊

都拾遺名處畫会　全部五冊

河内名所圖會　全部六冊

摂津名所圖會　全部十二冊

東海道名所圖會　全部六冊

木曽路名所圖會　全部七冊

伊勢路名處圖會　全部一冊

伊勢も別すり上仕まつる所の處内を余作ゆゑ通仕り市圓は作材てゝ

跋

平安畫工

法橋西邨中和

北陸東奥勝地真景
北四葉順拜圖會　全部十冊

山陰道名所圖會　全部七冊　近刻

南海道名所圖會　全部世冊　淡路　阿波　讃岐　伊豫　土佐　後刻

紀伊國名所圖會　全部五冊

同後集後篇　嗣出

文中題詩諸名家寄合書　此書は文中題詩諸名家の寄合書にして師文陶皇の筆にて諸家の詩歌を集めたるものなり

唐土名勝圖會　直隷省部　全部六冊

山城近江越前加賀越中越後信濃上野等八國圖　前篇五冊
武蔵下総常陸陸奥出羽下野相模甲斐駿河遠江参河尾張義濃後篇
附錄　伊勢大和河内摂津備後五冊

唐土訓蒙圖會　平仕事業先生選　浪華軒橘守國畫　全部十五冊

山城名勝志　全部二十二冊　別十二枚編入

山州名跡志　全部二十二冊

帝都雅景一覽　文鳳山人書　全部二冊

京の名所　全部二冊　図二面

都細見之圖　懐中折本一冊

都名所之図　懐中小本一冊

花洛細見圖　折本十五冊　嘉永十年花園茂兵衛

出来秋京七寺　全部七冊

京師順覽　全部拾五冊

都案時記　全部七冊

日本風土記　全部　十冊

都すなの色　絵本　二冊

増補　大日本國花鳥集記　全部　九冊　箱入　近刻

新板　難波丸綱目　全部　七冊

摂州名所志　全部　九冊

泉州志　全部　六冊

位吉名勝圖會　全部　五冊

長崎記行　近年長崎先生の記名高き全一冊

勝地真景　山水奇觀　浪華地江藩図　前後各四冊

東國名勝志　全部　五冊

摂津名所圖會　全部　十冊

東遊記行　全部　五冊

東海道名所図会　五冊

西國船路記　此書は東海道名所図会の原本にて江戸通の元ものなり

難波なにわの色　絵本　五冊　大阪市中を中心とせる名所旧跡を多く入れ

文化二年乙丑三月

大阪書林

京都書林

和泉屋源七
河内屋儀助
今津屋辰三郎
和泉屋久右衛門
塩屋喜助

小川多左衛門
菅屋儀兵衛
升屋藤兵衛
菱屋三郎右衛門
越後屋清太郎
美濃屋小兵衛
西村吉兵衛

京都帝国大学文学部校閲

東京帝國大學
圖書之印